



12

SHITSUKE PROGRAM

塾生 HAND BOOK 2023

—12のしつけプログラム—

AKIO HAYASHI



2023年6月15日

まえがき

開倫塾

塾長 林 明夫

1. (1)開倫塾は、1979年創業の小学生・中学生から大学進学を目指す本格的進学塾です。
(2)開倫塾の教育目標は、「自己学習能力(自分から進んで学ぶ力、主体的に学ぶ力)の育成」です。
(3)塾生一人ひとりが自己学習能力(自分から進んで学ぶ力、主体的に学ぶ力)を身に着けることにより、塾生一人ひとりが「人生の成功(多様な選択肢のある人生)」の実現と同時に、「正常に機能する社会(持続可能な社会)」の形成に貢献して頂きたいと^{こいねが}希っています。

2. (1)①そのためにはどうしたらよいか。最も大切なのは、学習習慣です。
②ではどのような「学習習慣」を身に着けたらよいか。
③本書は、様々な「学習習慣」を身に着けることにより、「学校成績(校内順位)大幅アップ」と「トップ校・難関校を含む第1志望校合格」を果たすための手順と、社会人としての基本動作を「開倫塾12の躰(しつけ)プログラム」として取りまとめたものです。
(2)①ですから、開倫塾に通塾する際には必ず持参し、授業の合間や、「自己学習スペース」での自学自習の初めや終わりの時間に熟読してください。
②たとえば、一項目でもチャレンジしていただければ、必ずお役に立つものと確信いたします。
③保護者の皆様もぜひ、折に触れて御熟読頂き、御活用頂ければ幸いです。

3. (1)本書は、開倫塾の創業者で塾長の林明夫が、創業以来の様々な経験を踏まえ、2022年度の塾生の皆様のために執筆したものです。
(2)本書の内容は、毎年、開倫塾の先生方を通して塾生の皆様にお伝えしているもので、開倫塾の卒塾生の皆様にはかなり親しまれているものです。
(3)また、塾長が38年間にわたって、毎週土曜日午前9:15～9:25までラジオ CRT 栃木放送でお伝えしている内容です。2002年から東京・栃木・群馬の3つの経済同友会の会員として、中学校・高校・大学・大学院などでお話している内容でもあります。学校だけでなく、社会に出てからもお役に立つものと確信いたしますので、ぜひ、保護者や地域社会の皆様とごいっしょに一生を通して、時々でもOKですからお読みください。

「開倫塾12の躰(しつけ)プログラム」

—目 次—

第1章 <予習の仕方を身に着けよう>

- No. 1 ゴールでウィークが終わるまでに、
新学年の予習をして、授業に臨もう 1

第2章 <美しい立居振舞い・美しい言葉遣いを身に着けよう>

- No. 2 靴(くつ)は手でそろえよう 10
No. 3 5S(ごえす)を身に着けよう 11
No. 4 美しい立居振舞い(たちいふるまい)を身に着けよう 15
No. 5 美しい言葉遣い(ことばづかい)を身に着けよう 18
No. 6 元気なあいさつをしよう。あいさつはこちらからしよう 20

第3章 <読解力を身に着けよう>

- No. 7 辞書を活用する習慣を身に着けよう 22
No. 8 新聞を毎日読む習慣を身に着けよう 25
No. 9 読書の習慣を身に着けよう 29

第4章 <勉強の仕方を身に着けよう>

- No. 10 学習の3段階理論を身に着けよう 32
No. 11 長い時間、勉強する習慣を身に着けよう 50

第5章 <勉強の心構えを身に着けよう>

- No. 12 感謝の心をもって勉強しよう 58

No.1「夏休みが終わるまでに、 新学年の予習をして、授業に臨もう」

Q 1 : 定期テストが終了し、2～3学期に備えて行ったほうがよいことは何ですか。

A : (1)「開倫塾 12 の躰(しつけ)プログラム」のすべてを十分に理解

した上で、勇気をもって「チャレンジ」、「実行」することです。

(2)そして、ゴールデンウィークが終わるころまでに、少しずつ「学



習習慣」を身に着けて、新学年の授業に臨むこと。

(3)「開倫塾 12 の躰(しつけ)プログラム」に少しずつでも OK ですから、今からチャレンジし、「学習習慣」を身に着け、新学年の授業に臨むことです。

Q 2 : 「開倫塾12の躰(しつけ)プログラム」というのは何ですか。

A : (1)「効果の上がる学習方法」の具体的方法も加味した「学習習慣」を身に着けることが、「トップ校・難関校を含む第 1 志望校合格」や、「学校成績(校内順位)大幅アップ」に直結する。これが開倫塾創業以来、44 年間の経験を踏まえて考えたことです。



(2)この学習習慣を 12 にまとめ、「開倫塾 12 の躰(しつけ)プログラム」として取りまとめたのが、「開倫塾 12 の躰(しつけ)プログラム」です。12 項目ありますので、一度か二度読んだ上で、また、1 年 12 か月に割り振って毎月チャレンジしてください。あとは必要に応じて何回でも身に着くまでお読みください。

(3)コロナ禍のため、これまで3年間、多くの学校で休校や分散登校、部活動短縮など様々なことがありました。ただ、ピンチはチャンスです。このコロナ禍の期間ほど自学自習の時間が確保できる時はありません。この「塾生ハンドブック 2023」はコロナ禍後どのように勉強したらよいか、その具体的な方法を塾長が全精力を傾けて執筆し続けた作品です。ぜひ、御活用ください。

<執筆者・塾長から一言>

(1)執筆は、この「開倫塾 12 の躰(しつけ)プログラム」を取りまとめる責任者である塾長林明夫です。全力を傾注して執筆いたしました。

(2)この<塾長メッセージ>は、これから順次、塾生の皆様に校長先生はじめ先生方を通じてお渡しいたします。開倫塾の H.P.塾長コーナーにも掲載してあります。

(3)ぜひ、自分の力で熟読の上、自分の力で理解し、少しずつで OK ですから、すべての項目にチャレンジしてください。

(4)保護者の皆様も、必ず、お読みください。御祖父母の皆様を含め、御家族の皆様全員で御活用ください。生涯にわたって必ずお役に立つと確信いたします。読み終えたものは、保存して頂き、繰り返しお読みください。

Q 3 : 「開倫塾12の躰(しつけ)プログラム」の第1番目は何ですか。

A : 「全教科、2～3学期の予習をして、秋～冬に臨もう」です。

(1)なぜなら、新学期の各教科の成績は、新学期の授業開始までにどれだけ予習をしたかで決まるからです。

(2)ですから、開倫塾の各学年のテキストや、学校の新学年の教科書は、手にした瞬間から予習を始めることをおすすめします。

(3)夏休みが終わるまでに、何教科かのテキスト・教科書を1冊まるごと予習し終えることをおすすめいたします。



＜ここでちょっと一休みコーヒープレークNo.1＞

(1)一番よい新学年の予習スタート時期はいつだと思いますか。それは、入学試験や学年末試験が終了した直後です。

(2)なぜなら、入学試験や学年末試験の直後は、「学校のある日は1日8時間」「学校のない日は1日12時間」の「長時間自己学習」をしていて、頭がさえわたっているからです。

(3)また、今まで1年間に学んだことの多くが身に着いていますから、新学年の新しい内容が「スー」と理解できるからです。

Q 4 : そこまでやる人がいるのですか。

A : (1)①「定期試験終了直後からスタートし、2～3学期が始まる前までに、または、夏休みが終わるまでに、その学年の教科書を勉強し終えることが、新学年の成績を決める」ことを知っている多くの人は行います。

②開倫塾では、43年前の創業時から、この時期の「予習の大切さ」を塾生、保護者、地域社会、ビジネスパートナー、すべての先生方・社員の皆様にお伝え続けてきました。

③私が担当する毎週土曜日午前9:15～9:25に放送中の、CRTラジオ栃木放送「開倫塾の時間 林明夫の歩きながら考える」でも、36年間お伝え続けてきました。



(2)2月下旬からゴールデンウィーク終了までこの方法で予習をやる、やらないは自由です。ただし、実行すれば、途方もないほど「効果の上がる学習方法」です。ぜひ、チャレンジすることをおすすめします。

(3)①医学部に進学して医師になった方や、法学部に進学して弁護士や検事、裁判官になった方、偏差値65～70以上のトップ校・難関校に進学なさった方など、多くの塾生が参考にしています。

②逆にいえば、「偏差値65～70以上のトップ校・難関校に入学したければ、1～2年分の予習をしてから、受験学年を迎える」ことは「常識」といえます。

③小学校 6 年生になってから小学校 6 年生の勉強をしたり、中学校 3 年生になってから中学校 3 年生の勉強をしたり、高校 3 年生になってから高校 3 年生の勉強をするよりは、受験学年になる前の 3 月中に、または、ゴールデンウィークが終わるまでに、1 教科でも多く、受験学年の勉強を一通りし終えておいたほうが、圧倒的に有利といえます。

(4)①少し先の話になりますが、大学や短期大学・専門学校・専修学校・大学院などで学ぶ場合に、指定された教科書や資料、参考文献、ホームページなどを第 1 回目の授業の前までに 1 回は読み終える。その内容を大体理解してから授業に臨むことは、絶大な効果があります。

②社会に出てから、新しいことを学ぶ場合も同じです。

③予め指定されたテキストや資料は、一通り勉強してから第 1 回目の勉強会に臨む。この予習の基本方法は、すべての分野を勉強する上で極めて役立ちます。

Q 5 : それではお聞きします。「予習」は何のためにするのですか。

A : (1)素晴らしい質問です。さすがは、開倫塾の塾生です。ここから先は、1 年分の予習だけではなく、「毎回の授業前の予習の仕方」も含めて説明しますので、よく理解してくださいね。

〈ここでちょっと一休みコーヒーブレイク No. 2〉

(1)「予習」には 2 つあります。その教科のテキストなどを学ぶ前に、一通り全部学ぶ「予習」が第 1 です。

(2)毎回の授業前に、その日の学習範囲について学ぶのが「予習」の第 2 です。

(3)教科書 1 年分を予習した場合にも、毎回の授業の前にその日の授業内容の予習をすることは予習の「常識」です。

(2)「予習」とは、「よくわからないところをはっきりさせて授業に臨むために行うもの」です。

(3)開倫塾や学校のテキスト・教科書を「予習」していると、よくわからないことがたくさん出てくると思います。

(4)「予習」をしていて、「辞書」で調べたり、「参考書」や「インターネット」で調べたり、友達や家の人に聞いたりしてもよくわからないことがあったら、「印」をつけておきましょう。

(5)「予習」を十分に行い、「よくわからないことをはっきりさせてから、開倫塾や学校の先生の授業に臨むこと」をおすすめします。「予習」はそのために行うものです。



Q 6 : エッ、「予習」をしていてよくわからないことがあったら、辞書や参考書、インターネットなどで調べるのですか。友達や家の人に聞いたりもしたほうがよいのですか。

A : その通りです。

(1) 「予習」をしていて意味のよくわからない「語句」があったら、「辞書」や「百科事典」、「用語集」、「参考書」、「インターネット」等を用いて調べることは、「予習」の「常識」です。

(3) 友達や家の人など、身近な人の中に、その教科や分野が得意な人がいたら、質問させて頂くこともよい「予習」になると思います。

(4) 「よくわからないことをはっきりさせて授業に臨む」とは、そういうことです。

(5) 「授業」が終わってもよくわからなければ、先生にお許しを頂き、授業中、または、授業後、質問させて頂きましょう。

(6) 予習をしていて学んだ結果は、「ノート」にしっかりと「メモ」することもお忘れなく。メモをしておかないと、折角「予習」をしてもすぐに忘れてしまうからです。このメモは大変貴重な「宝物」となります。



Q 7 : では、「予習」はどのようにやったらよいのでしょうか。教科ごとに教えてください。

A : (1) 国語・社会・理科・音楽・美術・保健体育・技術家庭情報・道徳の「第 1 回目の予習」は、「物語」を読むように、1 ページから、できるだけゆっくりと読み進めることをおすすめします。

(2) 「そうか、この学年ではこのようなことを学習するのか」という大枠（アウトライン）をまずつかむのが、「第 1 回目の予習」です。

(3) 英語は、教科書本文をスラスラとよく読めるようになるまで声を出して読む。できれば、英語だけでなく、国語と社会と理科の 3 教科も、また、音楽・美術・保健体育・技術家庭情報・道徳などすべての教科も小さな声を出しながらゆっくりと全文を「音読」することを、「第 1 回目の予習」としておすすめします。数学の教科書も、小さな声を出して読むことをおすすめします。



Q 8 : 国語と社会と理科の、毎回の授業前の「予習」はどうしたらよいのですか。

A : (1) 教科ごとにノートを 1 冊用意して、1 章ずつ項目や重要項目、大切な語句を書き写すこと。

(2) 読んでいて意味のよくわからない語句があったら、「気持ちが悪い」と考え、辞書や各教科の用語集、参考書やインターネットで調べること。

(3) 調べたことは、必ず、「ノートに書き写す」ことです。



ここでちょっと一休み<図書館を使いこなすことを「学習習慣」にしよう>

(1) 「学校図書館」や「公共図書館」が使用できるようになったら、「予習」は図書館であることをおすすめします。図書館での「予習」が一番効果的である

ことを、ぜひ、御記憶ください。

(2)ですから、図書館には毎日行き、図書館を使いこなすことも、身に着けるべき大切な「学習習慣」です。

(3)皆様の多くが進学する多くの大学・短期大学・専門学校・大学院には、かなり大きくて立派な図書館があります。

(4)大学などの授業の大半は「アクティブ・ラーニング」といって、テーマについて自分自身でよく調べ、自分なりの考え方をまとめて毎回の授業に臨むことが求められます。つまり、「予習」をしてからでないと授業に出てもよくわからないことになります。ではどこでそのような「予習」をするのかといえば、考えられる一番よい場所が大学図書館です。

(5)このように中学校・高校から図書館に親しんでおくと、大学・短期大学・大学院などに進学してとても役立ちます。

Q 9 : 国語の「予習」について、もう少し詳しく説明してください。

A : 国語では、「国語辞典」「漢字辞典(漢和辞典)」「古語辞典」などの「辞書」は「武士の刀(かたな)」と同じで、国語を勉強するときの最大の「武器」、「道具」です。

(1)国語の「予習」で第1番目にしたほうがよいことは、テキスト・教科書の「本文」を「声を出してゆっくりと読むこと」、つまり、「音読」です。

①意味がよくわかって、わからなくても、とにかく国語のテキスト・教科書の本文をゆっくりと「音読」することをおすすめします。

②音読していて、「読み方」がよくわからない語句があったら、「印」をつけておくこと。そして、あとで「漢字辞典(漢和辞典)」で読み方を調べ、「ふりがな(振り仮名)」を「ノート」に書き写しておくことです。

③「古文」や「漢文」を学んでいて、読み方や意味がわからないときには、「古語辞典」や「漢字辞典(漢和辞典)」で調べること。

(2)「音読練習」をしよう。

①「スラスラとよく読めるようになるまで」、つかえないでよく読めるようになるまで「音読」を繰り返してください。この練習を「音読練習」といいます。

②「音読練習」の第1目標は、「スラスラといえるようになる」ことです。

③「大切と思われる文章」は「何も見ないでスラスラと口をついて出てくるまで音読練習を繰り返す」ことです。「何も見ないでいえるようにまでになる」ことを「暗唱(あんしょう)」といいます。この「暗唱」が「音読練習」の第2目標です。

(3)「国語の予習」として第2番目にしたほうがよいことは、よく書けなそうな語句を、「書き順も含め正確に書けるまで練習」する「書き取り練習」です。

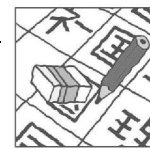
①国語のテキスト・教科書を読んでいて、また、「予習」として一度解いた問題の中に、書けなそうな語句があったら、人名や地名など固有名詞も含めて、すべて正確に書けるまで「書き取り練習」をしましょう。



- ②「何も見ないでスラスラといえるようになった文章」、つまり「暗唱(あんしょう)できた文章」を、「何も見ないで書き順も含め正確に書けるまでにする」ことを「暗記」といいます。
- ③このように、まずは「暗唱」できるまで「音読練習」をし、次に「書き取り練習」をしながら「暗記」できるまでにすることです。入学試験や様々な試験で過去に出題された問題を「過去問」といいます。この「過去問」も含め、予習として一度解いた問題についても「暗唱」や「暗記」を行えば、必ず、学校の「定期試験」や「実力試験」、「業者模擬試験」、「入学試験」や「3大検定」、「国家試験」でよい点数が取れます。また、このようにして身に着けた内容は、社会に出てからも忘れることはありません。一生役立ちます。

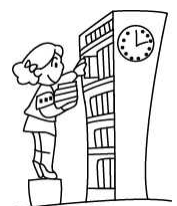
〈中学高学年・高校・大学生、社会人も「音読練習」と「書き取り練習」を〉

- (1)小学生や中学1・2年生は「音読練習」や「書き取り練習」をよくしますが、中学3年生や高校生、大学生、専門学校生、専修学校生、大学院生、社会人は「書き取り練習」を全くしない人が多いのが現状です。
- (2)これでは、いつまでたっても「うろ覚え」のままですから、難しい語句は身に着きません。ですから、中学高学年生と高校生は「音読練習」と「暗唱」、「書き取り練習」と「暗記」を意識的にするように心掛けてください。
- (3)「ことばは力」「ことばの数は力」「語彙(ごい)数は力」です。大学生、大学院生、社会人になっても「書き取り練習」をするように心掛けて、「書き順」も含め正確に身に着けてください。「暗唱」「暗記」をおすすめします。



Q10：この国語の「音読練習」「書き取り練習」をしながらの予習の仕方は、社会・理科・英語・美術・音楽・保健体育・技術家庭情報・道德などの「予習」にもそっくり当てはまるではありませんか。

- A：(1)その通りです。さすが、開倫塾の塾生ですね。ただし、社会や理科などは、「国語辞典」「漢字辞典(漢和辞典)」だけでは不十分です。「予習」していて意味のよくわからない「語句」が出てきたときに調べるのに役立つのは、社会や理科などの「分野別用語集」「学年別・分野別参考書」「百科事典」「インターネット」です。
- (2)これらは、家庭にない場合が多いのですが、図書館ならどこにでもあります。「学校図書館」や「公共図書館」が使用できるようになったら大いに活用しましょう。
- (3)国語はもちろんのこと、社会・理科・英語も、「音読練習」「書き取り練習」を「予習」の段階でも繰り返し行い、「学校の授業が始まるまでにすべて身に着け」てしまいましょう。「身に着けること」を「定着」といいます。すべて「定着」させてしまいましょう。



Q11：英語について、もう少し詳しく「予習」の仕方を説明してください。

A：(1)開倫塾の英語のテキスト、学校の英語の教科書は、手に入ったその日からできるだけ早め、早めに徹底的に「予習」してください。できれば、1冊全部を早めに「予習」し終えてください。「予習」するのに遠慮は一切不要です。

(2)開倫塾のテキストは練習問題が多いですが、「予習」として一度解いた問題は、「問題文」や「設問」、「選択肢」も含め、すべての英語の「音読練習」「書き取り練習」を必ず行ってください。



①「学校の教科書の本文」や「開倫塾のテキストの問題文の本文」は、スラスラと読めるようになるまで「音読練習」をすること。

②「音読練習」をしていて、意味のよくわからない語句があったら、「気持ちが悪い」と考え、「印」をつけておき、あとで「英和辞典」「和英辞典」「英英辞典」を用いて徹底的に調べる。辞書で調べたことは必ず「ノート」に書き写し、繰り返し読み込んで正確に覚えることです。

③英語の綴り(つづり、スペリング)の「読み方」がわからない場合には、辞書の「**発音記号**」を書き写すこと。「発音記号」の「読み方」がわからないときには、辞書の最初のほうに出ている「発音記号の読み方」のコーナーをよく読むこと。それでも「発音記号の読み方」がわからなければ、開倫塾の先生に質問してください。4月に学校が始まったら、学校の先生にも質問してくださいね。

〈「発音記号」と「文法」と文法に用いられる「文法用語」も身に着けよう〉

(1)高校を卒業するまでに「発音記号」に慣れ親しみ、「発音記号」の読み方を身に付けてください。大学に進学してから、社会に出てから、「英語以外の外国語」を学ぶときに役立ちます。

(2)英語の「文法」と文法に用いられる「文法用語」も身に付けてください。外国語を学ぶときに、「文法の知識」は不可欠だからです。そこに出てくる「文法用語」にも少しずつ慣れてくださいね。「英語以外の外国語」を学ぶときにも「文法」や「文法用語」が出てきますので、そのときに役立ちます。

(3)このように「英語の学習を通して、英語以外の外国語の学習の仕方も身に着けること」を心掛けてくださいね。



〈ここでちょっと一休みコーヒーブレイクNo.3〉

(1)電子辞書と紙の辞書とではどちらがよいか？どちらもOKです。持ち運びには「電子辞書」のほうが便利です。

(2)自宅や開倫塾での「自学自習」には「使い慣れた紙の辞書」を「パツ、パツ、パツ」とボロボロになるまで引くほうが便利かもしれません。

(3)両方持ち、使い分けるのがベストです。

- (3)①英語の「音読練習」と「書き取り練習」の第1目標は、「スラスラといえるようにまでなる」ことです。
- ②第2目標は、「何も見ないでいえるようになる」こと、つまり「暗唱(あんしょう)」です。
- ③第3目標は、「一度学んだ英語の文章が何も見ないで書けるまでになる」こと、つまり「暗記(あんき)」です。
- *「予習」の段階でここまで済ませてから、英語の授業に出ることを目指しましょう。

Q12：数学の「予習」はどのように行えばよいのですか。

- A : (1)①数学の予習は、1ページずつ「例題」「基本問題」「練習問題」「応用問題」をノートに解いていく。これ以外ありません。
- ②その際に大切なことは、「答え」だけでなく、必ず「問題文」も書き写し、その下に「解答」を書くことです。「解答」を書くときには、「解答にいたる計算や証明」などもすべて書くことがポイントです。
- ③数学のノートの使い方は自由ですが、普通は左側のページを予習用に使い、右側のページはすべて空けておくことが多いようです。
- (2)①問題を解いていてよくわからなければ、「解答にいたる計算や証明」などを書くスペースを空けておき、次の問題に挑戦することです。
- ②「解き方」や「考え方」がわからない問題は、学年別・分野別の「参考書」や「算数辞典」、「数学辞典」を参考に、「解き方」や「考え方」を考えましょう。
- (3)①数学の「参考書」や「数学辞典」などには、よく探せば、「似たような問題」、「類似(るいじ)問題」が必ずあります。
- ②「なぜそのように解くのか」、「どのような考えで解くのか」をよく考えながら、類似問題の「問題文」と「解き方」をノートにしっかり書き写すことをおすすめします。
- ③それらを書き写し終わったら、何も見ないで、その問題をもう一度ノートに解き直してみると、とてもよくわかってきます。



Q13：音楽・美術・保健体育・技術家庭情報なども「新学年の予習」をして新学年の授業に臨むほうがよいのですか。



- A : (1)もちろん、その通りです。各教科の教科書が手に入ったら、その瞬間から、1教科でも多く、最後のページまで目を通してください。
- (2)塾生の皆様の中で、楽器を演奏できる方や、音譜が読める方、歌が歌える方は、音楽の教科書を手にしたら、一通り、自分の得意な楽器で演奏したり、歌ってみることをおすすめします。このような「予習」ほど楽しい「予習」はありません。1

つ1つの楽曲の作者や背景などを調べてみると興味がつきません。美術の教科書に紹介されている作品も同様です。作者や背景を調べることは美術作品を観る目を豊かなものにします。音楽の歴史や美術の歴史ほど面白い歴史はありません。

- (3)美術・保健体育・技術家庭情報の教科書も、よく読めば面白くてためになる内容がぎっしり詰まっています。ノートを取ったり、辞書で調べたりしなくてもOKです。寝転びながらでもよいですから、それらの教科書をゴールデンウィークが終わるまでに、読んでしまってください。これからの1年が、素晴らしい学校生活になりますよ。

<ここでちょっと一休みコーヒーブレイクNo.4>

- (1)プログラムや「情報」で欠かせないのは、「レゴ」「ミニ四駆」「ハンダ付け電子工作(ライントレースカー、ラズベリーパイ、ロボット)」です。
- (2)「ライントレースカー」などに興味のある人は、「レゴ」「ミニ四駆」づくりに励み、「電子工作」に進んでください。
- (3)いきなり「ライントレースカー」を走らせようと思っても、「レゴ」「ミニ四駆」「ハンダ付け」「電子工作」に慣れ親しんでいないとなかなか難しいようです。



Q14：全部の教科の「予習」は1年分したほうがよいのですか。

- A：(1)理想は全教科ですが、よくできる教科だけでもよいですから挑戦してください。また、興味のある教科や成績アップを図りたい教科も、ぜひ、チャレンジしてください。
- (2)ただし、不得意な教科や苦手な教科は、予習どころではないと思われるので、思い切ってぐーんと、よくわからないところまで、以前の学年にまでさかのぼり、ゼロからやり直すことをおすすめします。
- (3)中学3年生でも、小学校で学ぶ「漢字」や「計算」が苦手だったら、苦手な学年までさかのぼって、ゼロからもう一度学び直しましょう。「よくわからないところまで さかのぼ って学び直すこと」を、開倫塾では「そきゅう 遡及学習」と呼んでいます。
- *中学生でも小学低学年生、高校生でも中学生の受験する「漢字検定」「算数・数学検定」をコツコツ受験することも「素晴らしい勉強方法」です。

Q15：教科書全部を「予習」するのは大変そうですが…。

- A：(1)1冊全部「予習」できそうな教科は、ゴールデンウィークが終わるまでに全部やり終える。
- (2)ちょっと難しそうなら、教科書の第1章、第2章の半分までなどと、1学期の「定期試験の出題範囲」までなどと無理のない範囲で「予習」をしてくださいね。
- (3)少しでも、新学年や第1学期、来月や来週、明日学ぶ内容を予め勉強することで、すべての教科の内容に興味を持てますよ。



Q 16：毎回の授業の前にも「予習」をしたほうがよいのですか。

A：(1)もちろん、その通りです。

(2)①まずは、すべての教科書を、声を出して読む「音読」をすること。

②意味のよくわからない語句があったら、「気持ちが悪い」と考え、必ず「辞書」「用語集」「参考書」「インターネット」などで調べる。調べたことはノートに書き写して、覚えること。

③「例題」「練習問題」「計算問題」などがあれば、「問題文」を書き写し、必ずノートに解くこと。数学や算数は「途中の計算」や「証明」などの「解き方」もすべてノートに書き写すこと。



(3)「予習」をしていてよく「理解」したら、「予習」の段階でも「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を繰り返し、確実に「定着(身に着ける)」させること。

①教科書は「スラスラとよく読めるようにする」こと。

②「何も見ないでスラスラといえるまでにする」こと(暗唱)。

③大切なことは、「何も見ないで正確に書けるまでにする」こと(暗記)。

④大事な計算や問題は、問題を見た瞬間に、パツ、パツ、パツと正解が出るまでにすること。

Q 17：何だか、今までのお話のまとめみたいです。

A：(1)学年が始まる前に1回目の「予習」をする。これに加えて、学年の途中、授業の前にも必ず「予習」をする。

(2)「予習」をして内容がよくわかったところは、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」をしてすべて身に着ける。

(3)これが「よくわからないところをはっきりさせてから授業に臨む」という意味での「予習」の極意といえます。ぜひ、チャレンジを。



Q 18：最後に一言どうぞ。

A：(1)①「予習」をしてよく「理解」できたところは、「予習」の段階でも「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」をする。

②そして、何も見ないでスラスラとよく読めるようにすること(暗誦)、何も見ないで書けるようにすること(暗記)に、少しずつでもチャレンジすること。

③「予習」をして「よくわからないところをはっきりさせてから授業に臨む」。

(2)①このようなやり方での「予習」に少しずつでもチャレンジすることは、小学校でも、中学校でも、高校でも役立ちますが、実は、大学、短期大学、専門学校、専修学校、大学院、もっとはっきりいえば、社会に出てからの勉強に絶大な効果があります。

②なぜなら、これからの大学などでは「アクティブ・ラーニング」といって「予習」のときに教科の内容を理解し、少しでも身に着け、また、何がわからないかをはっきりさせたり、与えられた課題について自分の考えをまとめてから授業に臨むことが求められるからです。

③社会に出ると今回紹介した「予習の仕方」はさらに役立ちます。なぜなら、社会に出てからも新しく勉強することが山のようにどんどん出てくるからです。小学校、中学校、高校、大学で行った「予習」のように、自分の力で新しい分野を勉強することが求められるのは、実は社会に出てからなのです。ここで話した「予習の仕方」は、実は大学や社会に出てから「絶大な効果」を発揮するものです。今のうちにしっかり身に付けてください。



(3)小学生、中学生、高校生のうちから、少しずつでも「**新学年の予習をして、新学年に臨むこと**」「**毎回、授業の前に予習をして授業に臨むこと**」、この「**2つの予習**」を「**学習習慣**」として身に付けてください。

(4)定期試験を終え、頭がさえわたっている今が次学年の秋～冬の「予習」をするのに絶好のチャンスです。特にコロナ禍で自学自習の時間がぐーんと増えている夏休み前は絶好のチャンスです。ピンチをチャンスにしましょう。夏休みも2学期の予習をする絶好のチャンス、冬休みも3学期の予習をする絶好のチャンスです。少しずつでもOKですから、ぜひ、チャレンジしてくださいね。



No.2「靴(くつ)は手でそろえよう」

— 「自立」から「自律」へ—

Q 1 : 「靴は手でそろえよう」とはどんなことですか。

A : (1) 自分でぬいだ靴はぬぎっ放しにしないで、「手でそろえる」ということです。

(2) かなり多くの方は、自分でぬいだ靴をそのままぬぎっ放しにしておくようですが、今日から、それはやめましょう。

(3) 自分でぬいだ靴は「手でそろえる」ことを、「習慣」としましょう。



Q 2 : なぜですか。

A : (1) 自分でぬいだ靴は、ぬぎっ放しにしないで「自分の手でそろえる」ということは、自分の行動には責任を取るということを意味します。

(2) 自分の行動については最後まで責任を取る「自己責任」という考え方が、勉強を含めあらゆることについて必要です。その手始めが、自分でぬいだ靴は自分の手でそろえることです。

(3) この他に、「靴を手でそろえる」には、どのような意味があると思いますか。



Q 3 : 「靴を手でそろえる」ということは、自分の足元あしもとをよく見るということですか。

A : (1) ① その通りですね。さすが開倫塾の塾生、よいところに気が付きました。

② 「靴を手でそろえる」ということは、「いつも自分の足元を見る」ことも意味すると、考えます。

③ 「いつも自分の足元を見る」ということは、「いつも自分の足元を見て、自分を振り返る」「自分の行った行為がよかったかどうか反省する」ことを意味します。

(2) 孔子の教えを弟子たちが 499 章にまとめた「論語」の中に、「三省(さんせい)」という章があります。

「孔子の門人の曾子が言った。私は一日の中で何回も何回も、主として次の点について反省する。

① 一つは、他人のために相談に乗った時、ほんとうに誠意をもって考えてやったか、ということ。

② 二つは、友達との交際において、信義を尽くさないことはなかっただろうか。

③ そして、三つには、まだ自分の知識として完全に消化されていない事からを、他人に教え伝えはしなかっただろうか、と。」

* 「論語抄」史跡足利学校発行 5 ページより引用<三省>

(3)①自分の足元をよく見る。

②注意深く生活し、交通事故や事件・事故に巻き込まれないように
しましょう。

③「注意一秒・けが一生」です。



Q 4 : ところで、サブタイトルの「自立」から「自律」へとは、どのようなことですか。

A : (1)「靴を手でそろえる」ことは、自分の足元に光をあてて自分自身のことをしっかり見つめ、自分自身を振り返る力を身に着けることと考えます。

(2)自分の力で立つことができる、つまり「自立」から、徐々に自分の行動を自分の力で律する、コントロールすることができる「自律」に進むことを意味します。

(3)ものごとの大切さ、つまり「価値」を1つ1つのことの中に見出し、その大切さ「価値」の意味を自分の力で考え、「意味付け」をする。そして、何をしたらよいのか、何をしないほうがよいのかを自分の力で考える。これが「自律」です。

(4)「自立」から「自律」へ、「自律的に行動する能力」こそが、「靴を手でそろえる」ことの目的でもあります。

Q 5 : 「自立」から「自律」へですか。ちょっと難しそうですね。

A : まずは、「靴を手でそろえる」から始め、自分自身を見つめ直し、そのあとは、今、行っていることの大切さとは何かなどを考えれば、「自立」から「自律」へは少しずつ実現できます。ゆっくりやってくださいね。



No.3「5S(ごえす)を身に着けよう」

Q 1 : 5S(ごえす)とは何ですか。

A : ローマ字で書くと S で始まる 5 つのことがらをまとめたものです。

- (1) 「整理」 seiri … 要らないものは取り除く
- (2) 「清掃」 seisou … きれいに掃除そうじする
- (3) 「整頓」 seiton … ものと同じところに置く
- (4) 「清潔」 seiketsu … それらを継続する
- (5) 「躰」 shitsuke … 自分から進んで行く



Q 2 : 例をあげて、具体的に説明してください。

A : わかりました。それでは、私がいつも持ち歩いている「カバン」を例に、「整理(seiri)」から具体的に説明いたします。

- (1) 私は、いつも持ち歩いているカバンを 1 ~ 2 日に 1 回ずつ「整理」し、中に入っている要らないものを取り除き、捨てたり、別の決まった場所に置いたりしています。
- (2) なぜなら、いろいろなところで活動していると、新しい資料などがどんどん配布され、放っておくとすぐにカバンの中がいっぱいになってしまうからです。
- (3) 1 ~ 2 日に 1 回ぐらいは、要らないものを取り除くことが必要となります。
* このように「要らないものを取り除く」、これが「整理」です。



Q 3 : 「整理(seiri)」したほうがよいものは、カバンのほかにありますか。

A : あります。山ほどあります。

- (1) 「筆入れふでい」の中も「整理」しましょう。
- (2) 自分が使っている「机の上」「机の引き出しの中」「タンスの中」「ロッカーの中」も、時々でよいですから「整理(seiri)」したほうがよいと思います。
- (3) 「本立て」や「本棚」も時々「整理(seiri)」しましょう。
* 身近なところから、少しずつ「整理(seiri)」をしてみましょう。



Q 4 : 「整理(seiri)」の次の「清掃(seisou)」とは何ですか。

- A : (1) 「清掃(seisou)」とは、「整理(seiri)」し終わったら、「きれいに掃除そうじすること」です。
- (2) 「カバン」の中を「整理(seiri)」し、つまり、「要らないものを取り除く」ことをしたあと、カバンの中をきれいに掃除そうじしましょう。
 - (3) このように、「整理(seiri)」をしたら、そのあときれいに「清掃(seisou)」し、つまり、掃除をすることが大切です。

Q 5 : 3つ目のS、「整頓(seiton)」とは何ですか。

A : (1)「整頓(seiton)」とは、「ものは同じところに置くこと」です。

(2)例えば、私の先ほどのカバンの中は、できるだけこの「整頓(seiton)」をするように心掛けています。

①具体的にいうと、私のカバンの前面にあるファスナーのついた小さな「ポケット」の中には、この10年来いつも決まったものが置いてあります。何だと思いませんか。

②それは、「スイカ」と「カギの束^{たば}」です。私は電車やバス、地下鉄などに乗ることが多いので、そのときは「スイカ」を使います。また、私は自動車を運転しますので、自動車のカギは必要不可欠です。家のカギや開倫塾の本部事務所のカギも必要です。



③ですから、私はスイカとカギの束はいつも同じ場所、つまり、小さな「ポケット」の中に置いておくようにしています。

(3)このように、「ものは同じ場所に置く」という意味での「整頓(seiton)」を、カバンの中で行っています。

Q 6 : 「整頓(seiton)」しておく、何かよいことがありますか。

A : (1)たくさんあります。私は、カバンの前面の小さなポケットの中に「整頓(seiton)」して「スイカ」と「カギの束」をいつも入れておきますので、「スイカ」と「カギ」を捜し回ったり、忘れてたりすることが、めったにありません。

(2)皆様の中で、「忘れ物」をする方、大切なものを「捜し回る」方は、「ものを同じところに置いておく」という意味での「整頓(seiton)」をしていないからではないでしょうか。

(3)筆入れの中や机の上、机の中、タンスやロッカーの中、本立てや本棚を時々「整頓(seiton)」して、「大切なものは同じところに置く」ことを心掛けてみましょう。「忘れ物」や「ものを捜し回る」時間が、グンと減ってきますよ。



Q 7 : 「5S」の4番目の「清潔(seiketsu)」とは何ですか。

A : (1)「清潔(seiketsu)」とは、「①『整理(seiri)』②『清掃(seisou)』③『整頓(seiton)』をやり続ける、継続すること」です。

(2)例えば、私は、自分が持ち歩くカバンの前面の小さなポケットの中の「5S」は、この7～8年ずっとやり続けています。カバンの中は1～2日に1回は「整理」「整頓」「清掃」をしています。「スイカ」と「カギの束」は、いつもカバンの前面の小さなポケットの中に置き「整頓」をし続けています。

(3)このように、小さなことでも、小さな場所についても、大切と思われるところから1つ、2つとやり続ける、継続する。これが「5S」の「清潔」です。「5S」を継続し、清潔な状態を保つという考えはとても大切です。

Q 8 : 「5S」の最後の「躰(Shitsuke)」とは何ですか。

A : (1) 「躰(Shitsuke)」とは、自分で「5S」をやると決めたのですから、「自分から進んで行うこと」です。

(2) 例えば、カバンの前面の小さなポケットの中に「スイカ」と「カギの束」を入れておこうと決めたら、自分で決めたことなので「自分から進んで行うこと」です。

(3) また、みんなでこのようにやろうねと決めたら、「自分たちで決めたことは、自分から進んで行うこと」。これが、「5S」の第5番目の「躰(Shitsuke)」です。



Q 9 : 「5S」は役立つのですか。

A : (1) カバンの中や机の上、机の中、タンスやロッカーの中、本立てや本棚など、身近なところで「5S」は役立ちます。

(2) 家庭でも、例えば、玄関、台所、居間、トイレ、風呂、シャワールームなども「5S」を行えば、とても役立ちます。

(3) 学校でも、教室や部活動で用いる体育館など、ありとあらゆる場所で「5S」は役立ちます。

Q 10 : 社会に出ても「5S」は役立つのですか。

A : (1) 学校だけでなく、ありとあらゆる職場でも「5S」は役立ちます。

(2) 例えば、工場、建設現場、事務所、コンビニ、商店、ガソリンスタンド、病院、介護施設、電車や船舶、飛行機やジェット機など、文字通り、ありとあらゆる場所で「5S」は役立ちます。

(3) このように、家庭でも、学校でも、社会でもありとあらゆるところで役立つのが「5S」です。少しずつで OK ですから、身近なところから「5S」を身に付けてください。日本国内だけでなく、世界各国どのような各地域でも「5S」は役立ちます。

Q 11 : 「5S」の大切さが少しずつわかってきました。「5S」の「考え方」も大切なのですね。

A : その通りです。さすが、開倫塾の塾生ですね。何かものごとをやろうとするときにも、「5つのS」で始まる「5S」の「考え方」はとても参考になります。

(1) ① 例えば、「5S」の一番最初の「整理(seiri)」は「要らないものは取り除く」という意味です。

② やらなければならないことが、どんどん増えてきたときはどうするか。

③ あれもこれもはできない。そんなときには、「今やっていることの中でやめたほうがよいことは、よく考えた上でいさぎよくやめて、今必要なこと、これから必要なことを行う」。これも「整理(seiri)」です。

(2) ① 今やっていることをやめたあとは、きれいに「掃除そうじ」、「清掃(seisou)」、あとしまつ後始末をする。



- ②きれいに後始末をしたら、仕事の順序、手順をよく考える。これは、「ものは同じところに置く」「整頓(seiton)」の考えですね。
- (3)①一度始めたことはやり続ける、継続する(「清潔 seiketsu」)。
- ②自分で決めたこと、自分たちで決めたことは、人からやるようにといわれなくても、自分から創意・工夫^{そうい くふう}して進んで行く。これは、「躰(Shitsuke)」の考えです。
- ③このように、「5S」の「考え」は、ものごとをなしとげるときにも役立ちます。

Q 12：なぜ開倫塾では「5S」を塾生の皆様にすすめるのですか。

- A : (1)①開倫塾の創業の地であり、現在も本社の所在地である栃木県足利市は、日本のみならず世界で最も熱心に「5S」と取り組んでいる街で、日本のみならず世界各地から毎日のように「5S」の視察団が訪問しています。
- ②また、2012年から2年ごとに「世界5Sサミット」が開催されています。「5S」がとても盛んで、2020年で第5回目を迎えました。
- ③開倫塾もメンバーである足利商工会議所には「足利5S学校」があり、塾長はその役員を務め、また、開倫塾の先生は毎年1名ずつ5Sインストラクターの研修を受け、資格を取得しています。
- (2)①「5S」は、職場だけでなく、学校や家庭でも役立つものです。
- ②そこで、開倫塾では、足利5S学校の許可を得て「開倫5S学校」を開倫塾の全校舎で開校しています。
- ③少しずつですが、「5S」について、その基本的な考え方をお伝えしています。
- (3)皆様のお役に立つと考えますので、少しずつでOKですから、「5S」に親しみ、チャレンジし、家庭や学校での生活、社会に出てから役立てていただければ、こんなうれしいことはありません。



No.4「美しい立居振舞い(たちいふるまい)を身に着けよう」

Q 1 : 「美しい立居振舞いたちいふるまを身に着けよう」とは、どのようなことですか。

A : (1) No. 3「5Sを身に着けよう」の5番目に「自分から進んで行く」という意味での「躰しつけ」がありましたが、「躰」には別の意味もあります。

- | |
|--|
| <p>①「美しい立居振舞い<small>たちいふるま</small>」</p> <p>②「美しい言葉遣い<small>ことばづか</small>」</p> <p>③「元気なあいさつ・あいさつはこちらから」</p> |
|--|

この3つです。



(2) 開倫塾では、No. 2「靴は手でそろえる」、No. 3「5S(ごえす)」と、この「①～③」の3つの躰、No. 12「感謝の心をもって勉強しよう」も、「開倫塾12の躰プログラム」として塾生の皆様にご紹介・おすすめしています。ぜひ、これらも、広い意味での「学習習慣」の一環として身に着けて頂きたいと希望いたします。

Q 2 : 「美しい立居振舞い」とは何ですか。具体的にわかりやすく説明してください。

A : (1) 「エチケットを身に着ける」ということです。

- ①例えば、開倫塾や学校の授業中には、授業中のエチケットを守ることが大切です。おしゃべりをする、ゲームやスマホをすること、歩き回ることなどは、授業中のエチケットに反します。「美しい立居振舞い」とはいえません。
- ②授業が終わったら、使用した机やいすはきれいに元通りにすること、自分で出した消しゴムのカスはティッシュでとりまとめること、自分で出したゴミはすべて持ち帰って家で処分することなどは、「美しい立居振舞い」といえます。
- ③例えば、部活動などではみんなで準備や後片付け・掃除をする、職員室を出入りするときにはノックやお辞儀をするなどは、「美しい立居振舞い」です。よく考えれば、学校生活にも「美しい立居振舞い」として大切なことがたくさんあります。少しずつ身に着けていきましょうね。



Q 3 : 社会に出てから、「美しい立居振舞い」として大切なことは何ですか。

A : (1)「お先にどうぞ(After you、アフター・ユー)」です。これは、社会での「美しい立居振舞い」の代表例です。具体的には、

①建物や部屋の出入口では、「他の人に先を譲る」こと。

②乗物(バスや電車、エレベーターなど)に乗るときや降りるときには、「お先にどうぞ」と「他の人に先を譲る」こと。

③乗物の座席を譲ること。

(2)「重たいカバンや、重たい荷物などは持ってあげること」も「美しい立居振舞い」です。

(3)障害のある方がいらっしゃったら、「何かお手伝いできることはありませんか」などと声をかけ、できることはやってあげること。



①「点字ブロック」の上には、物を置かないこと。

②目の不自由な方には、必ず自分の氏名を名乗ってからお話をすること。

③語尾を明瞭に、はっきりして、できるだけゆっくり話すことなどに気を付けることは、「美しい立居振舞い」と考えます。

(4)「食事のときには、全員の料理がそろうまで手を付けない」こと。

*逆にいうと、レストランや食堂は、料理はバラバラに出さないこと、できるだけ全員分を一斉に出すことが求められます。



(5)場合によっては、その場に合わせた「服装も大切なエチケット」、

「美しい立居振舞い」に含まれます。

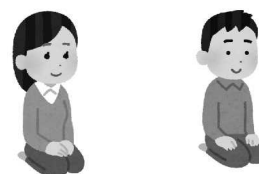
*別に高価な服装でなくてもよいのです。その場に合う小ざっぱりとした服装が大切です。

Q 4 : 歩き方や座り方、お辞儀の仕方も「美しい立居振舞い」に入るのですか。

A : (1)はい。あまり無理をすることはありませんが、きれいな歩き方や座り方、お辞儀の仕方をする人を見かけたら、少しずつでも参考にすることをおすすめします。

(2)ただし、くれぐれも無理をしないことです。私は、中学校と高校のときに足首を何回も捻挫したため、正座をすることが苦手です。そこで、座るときにはできるだけいすを使わせて頂いています。いすのないときは、「あぐら」をかかせて頂いています。くれぐれも無理はしないことです。

(3)自分で使った「いす」は、元の位置に「きちんと」もどすことも大切です。「美しい立ち居振る舞い」といえます。気を付けましょう。



Q 5 : では、どこで「美しい立居振舞い」を身に着けたらよいのですか。

A : (1)私の場合、中学校で柔道や陸上競技をやっていたので、練習の最初や最後のミーティングでのあいさつ、大会の開会式と閉会式、試合の前のあいさつ、試合終了後のあいさつなどで、「姿勢を正しくすること」や「お辞儀の仕方」をずいぶん学ぶことができました。

(2)①日本の学校では、入学式、卒業式、学期ごとの始業式・終業式、毎週の朝礼、毎日の HR や反省会、修学旅行や宿泊体験、文化祭や体育祭など様々な会合や学校行事で、「姿勢を正すこと」や「お辞儀の仕方」をはじめ、「美しい立居振舞い」を具体的に学ぶことができます。



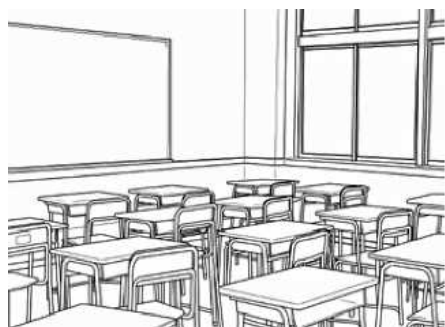
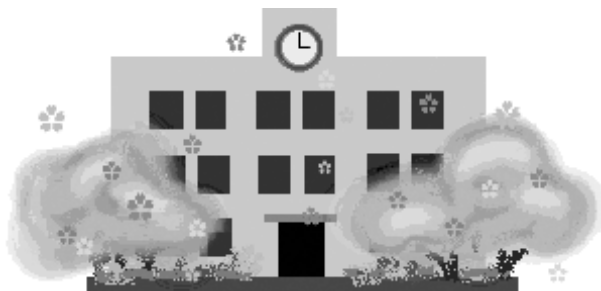
②また、学校外のスポーツ団体、文化団体、社会活動の団体の様々なプログラムでも、「美しい立居振舞い」を身に着けるチャンスが山ほどあります。

③学校や学校外の活動に積極的に参加し、「立居振舞い」をしっかり身に着けてくださいね。

(3)①皆様は、あまりご存知ないと思われませんが、実は、日本の小学生、中学生、高校生の多くは、世界でも最もよく「立居振舞い」の教育がなされていると、世界中の方々から高く評価されています。

②日本人の「立居振舞い」のよさは、学校教育や家庭教育、様々な分野での社会教育の成果と考えます。

③特に、学校での教科以外の教育活動、学校外の社会教育活動、それに、家庭での躰教育の成果だと考えます。



No.5「美しい言葉遣い(ことばづかい)を身に着けよう」

Q 1 : 「美しい言葉遣い」はなぜ必要なのですか。

- A : (1) 敬語表現を含む美しい言葉遣いは、コミュニケーション、人間関係を築き上げる基本中の基本、ことばは心、だからです。
- (2) どんなに学校の成績が優秀でも、どんなに難しい学校に入学しても、どんなに難しい試験に合格しても、ぞんざいで、乱暴な言葉遣いをし続けたら、他の人とのコミュニケーションはうまくできず、人間関係を築き上げることは困難です。
- (3) ですから、教科の勉強や受験勉強と、同時併行して、敬語表現を含む「美しい言葉遣い」を少しずつでも身に着けることが大事です。



Q 2 : どうすれば「美しい言葉遣いを身に着けること」ができますか。

- A : (1) 「標準的な言葉遣い」で書かれている、開倫塾のテキストや学校の教科書で学ぶことができます。
- (2) 開倫塾や学校の先生方の言葉遣い、TV やラジオのアナウンサーの言葉遣いで、美しいと思われるものがあれば、大いに参考にしてください。
- (3) 詩、短歌、俳句、小説、エッセイなどの日本や中国、世界の「名作」と呼ばれる作品は「美しい言葉遣い」であふれています。
- ① 新聞や本を、折に触れてたくさん読み、「美しい言葉遣い」を大いに学んでください。
- ② 特に、「詩集」はおすすめです。感動あふれる、「美しい言葉遣い」の集まりが、詩集といえます。気に入った「詩」は空じていえるまでにしましょう。皆様の好きな詩人はだれですか。私は高村光太郎の「智恵子抄」という詩集が大好きです。アメリカ人では、「ポー」という作家の詩が大好きです。
- ③ TV やラジオの出演者の中には「ウケ」ることをねらい、「美しい言葉遣い」からかけはなれた言葉遣いをする人もいます。あまり参考にしないようにお願いします。面白がってまねをし過ぎると、それが身に着いてしまいますよ。



Q 3 : 人とお話をするときのポイントは何ですか。

- A : (1) ① 「傾聴」、「人の話によく耳を傾ける」ことです。「人の話は最後まで聞くこと」が大事です。
- ② では、「延々(えんえん)と途切れなく話し続ける人」の話は、どのように聞いたらよいか。2～3分、長いときには5分以上相手が一方的に話し続けたら、

「ちょっとよろしいですか」といって、聞きたいことや、こちらから伝えたいことがあれば、聞いたり、伝えたりするとよいと考えます。

③ただし、「礼を尽くす」ことが大事です。

(2)①会話は「ことばのキャッチボール」です。

②相手が1～2分話したら、相手のお話を踏まえてこちらも1～2分話す。相手が4～5分話したら、相手のお話を踏まえてこちらも4～5分話す。

③話すときには、できるだけ「ていねい」な言葉遣いで、相手に対して尊敬(Respectリスペクト)の心をもってお話をすることを心掛けましょう。



(3)①「自分が言われて、嫌な気持ちのすることは言わない」

②「相手の立場に立って考え、ことばにする」

③「よくがんばってえらいね」などと相手を「評価する」、「お疲れ様でした」と相手を「ねぎらう」、「これからもがんばってね」と相手を「励ます」ことも心掛けましょう。

Q 4 : 「美しい言葉遣い」の反対は何ですか。

A : (1)それをいわれたら、相手が嫌な気持ちにする「言葉遣い」です。

(2)「親しき中にも礼儀あり」です。大切なことを伝えたいときには、身近な人にほど、親切・ていねいでわかりやすい「言葉遣い」を心掛けましょう。

(3)特に、相手がよく知らないことを伝えるときには、「親切・ていねいでわかりやすい」言い方でゆっくりと伝えることも、「美しい言葉遣い」と考えます。

Q 5 : 相手の意見や考えに反対の意見を述べるときにはどうしたらよいのですか。

A : (1)まずは、「相手が考えていることを自分はちゃんと理解していること」を伝えること。

(2)その上で、「あなたはそう考えるかもしれないが、私はこう考える」と、自分の意見を述べるのが大切です。

(3)相手の意見や考えを頭から否定することは、相手の立場を尊重することにならないので、できるだけ避けましょう。

* 「美しい言葉遣い」に出会ったら少しずつメモをしておき、参考にしましょうね。



No.6「元気なあいさつをしよう。あいさつはこちらからしよう」

Q 1 : なぜ元気なあいさつが必要なのですか。

A : (1)「美しい言葉遣い」と同じように、「元気なあいさつ」は人間と人間とのコミュニケーション、^{いしそつう}意志疎通の基本中の基本だからです。

(2)「あいさつ」にはいろいろなものがあります。例えば、

- ①「おはようございます」
- ②「こんにちは」
- ③「元気ですか」
- ④「こんばんは」
- ⑤「おやすみなさい」
- ⑥「頂きます」
- ⑦「ごちそうさまでした」
- ⑧「ありがとうございます」
- ⑨「失礼します」「お先に失礼します」
- ⑩「すみませんでした」
- ⑪「はじめまして」
- ⑫「よろしくおねがいします」
- ⑬「はい」
- ⑭「バイバイ」
- ⑮「では、また、明日」「では、また、来週」
- ⑯「お元気で」



(3)このような「あいさつ」を、自分から進んで「元気よく」することが大切です。

- ①小さな声でボソボソとあいさつをするよりは、相手に聞こえるくらいの、少し大きな声で「あいさつ」をすることが大切です。
- ②「あいさつ」をするときには、できたら、「相手の目」を見て、「アイコンタクト」をして、「あいさつ」をすることが大切です。
- ③相手と目を合わせず、小さな声であいさつをするよりは、相手の目を見て、相手に聞こえる少し大きな声で、「元気にあいさつ」をすることを心掛けましょう。

Q 2 : あいさつは「こちらからする」ものなのですか。

A : (1)その通りです。

(2)「あいさつは、本来、こちらからする」ものです。

(3)「あいさつは、こちらから元気よくする」ことを心掛けましょう。ですから、

相手が自分に「あいさつ」をしてくれなくても、がっかりしたり、腹を立てたりしないことが大切です。心を大きく持ってくださいね。

〈あいさつをすると何かよいことがあるのですか〉

(1)たくさんあります。例えば、家族や友だち、先生方とちょっと気ま
ずくなったときなどに、「こちらから元気なあいさつ」をすると、「気
まずさ」が、少しずつ、少なくなります。



(2)例えば、家族とけんかなどをして、ちょっと気ま
ずくなったらどうするか。朝起きたら「おはよう」、朝食の前は「頂きます」、食べ終わったら「ごちそう
さまでした」、学校に出かけるときには「行って参ります」、学校から家に帰ってきたら「ただいま」、夕食前には「頂きます」、食べ終わったら「ごちそうさまでした」、夜寝る前には「おやすみなさい」などと、少し大きな声で「あいさつ」をすれば、家族間の人間関係は、一気によくなります。

(3)また、例えば、学校の友だちと何かの拍子に仲たがいをしてしまったらどうするか。朝会ったら「おはよう」、学校から帰るときには「さようなら」、「バイバイ」と少し大きな声で「あいさつ」をしましょう。すぐに元通り仲良くなれます。

*このように、「元気なあいさつ」「あいさつはこちらからする」は人間関係を形づくったり、人間関係を回復するのに、計り知れないほど、絶大な効果があります。



*また、「元気なあいさつ」は、自分も元気になるし、相手を元気にします。その場にいる人々、みんなを元気にします。社会を元気にします。

Q 3 : メールや手紙であいさつをしてもよいのですか。

A : (1)もちろんです。メールや手紙を書くときにも、心のこもった「元気なあいさつ」を添えてください。

(2)もっと言えば、メールや手紙こそ、心のこもったあいさつや相手を気遣うあたたかいことば、感謝を表すことばを、できるだけいい言い方・表現で書き表すことをおすすめします。

(3)「元気なあいさつをすること」「あいさつはこちらからすること」は、人間としての行動の第1と考えます。

〈ここでちょっと一休みコーヒーブレイクNo. 5〉

(1)メールでのやりとりは手軽で便利ですが、大切なコミュニケーションですので、メールのことば遣いは「親切、ていねい、わかりやすく」を心掛けましょう。

(2)「メール」の文章には、必ず「元気なあいさつ」を書くと同時に、「お礼」のことばや「感謝」のことば、必要があれば相手の行ったことを「正しく評価」することばを書き添えましょう。

(3)メールの最後には、相手の「健康などを気遣う」ことばや「励まし」のメッセージなども書き添えてください。

No.7「辞書を活用する習慣を身に着けよう」

Q 1 : どのようなときに辞書で調べたらよいのですか。

A : (1)開倫塾のテキストや教材、問題集、学校の教科書や資料集などありとあらゆる教材を勉強していて、意味のよくわからない語句に出会ったら、「気持ちが悪い」と考え、辞書を用いて調べることが大切です。

*「新聞」を読んだり「読書」などをしていて、「意味のよくわからないことば」に出会ったら、「気持ちが悪い」と考えて、辞書で調べましょう。

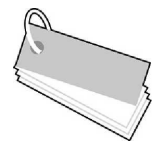


(2)大切なのは、「意味のよくわからない語句に出会ったら、『気持ちが悪い』と考える」ことです。

(3)そのことばの前後の文章から、そのことばの意味を類推することも、とても大切です。しかし、いくら考えても意味のわからない語句は、時間をつくって辞書を用いて意味を確かめ、十分に「理解」したほうがよいと考えます。

Q 2 : 辞書で意味を調べたあとは、どうすればよいのですか。

A : (1)辞書で「調べた意味」は、「意味調べノート」や「単語カード」に書き写し、よく「理解」することです。辞書の説明が「理解」できなければ、更に調べる、わかるまで調べることです。



(2)「意味調べノート」や「単語カード」に意味を書き写し、よく「理解」できた語句は、「音読練習」や「書き取り練習」を繰り返して、その語句の意味を正確に覚えること、筆順も含め正確に書けるまでにすることです。

(3)一度調べた「語句」と「その意味」をよく「理解」し、正確に覚え、正確に書けるまでにすることで、身に着けている「ことばの数」が一気に増えます。

(4)身に着けた「ことばは力」「ことばの数は力」です。「読解力」の基礎ができます。

Q 3 : 「意味調べノート」や「単語カード」は、そんなに役立つのですか。

A : (1)一度作成した「意味調べノート」や「単語カード」は、1ページ目から、また、1枚目から昨日作成したところまで、毎日、声を出して読み続けることです。知らないうちに、全部覚えられます。

(2)その意味も含めて、よく書けなそうな語句は繰り返し「書き取り練習」をすることです。必ず、正確に書けるようになります。

(3)①一度作成した「意味調べノート」や「単語カード」は、決して処分しないで、「一生保存」。一生かけて繰り返し読み直しましょう。「理解」がどんどん深まります。

- ②「意味調べノート」や「単語カード」を学び直せば学び直すほど、「短期記憶」(短い期間の記憶)が長期記憶(長い期間の記憶)になり、「記憶の痕跡^{こんせき}」を残すことができます。忘れることが少しずつ減ってきます。
- ③最終的には、辞書で調べた語句のすべてを、身に着けることができます。



Q 4 : 英語はどのような辞書を使えばよいのですか。

- A : (1) ①「英和辞典」、「和英辞典」、「英英辞典」の 3 つの辞書を使いこなしましょう。
- ②これらのどの辞書にも「初級用」、「中級用」、「上級用」があります。自分の英語のレベルに合わせて活用してくださいね。
- ③「電子辞書」でも「紙の辞書」でも OK です。どちらも使いこなせるようにしておくとう便利です。
- (2) ①「電子辞書」は、持ち運びに便利です。「紙の辞書」は、落ち着いてじっくり勉強するのに便利です。
- ②大学や大学院によっては、入学試験や学校の定期試験のときに「紙の辞書」のみ持ち込み可の場合があります。「電子辞書」にはパソコン機能がついていることがあるからです。
- ③「紙の辞書」は普段から使い込んでいないと、パツ、パツ、パツと調べることができず、役に立ちません。高校卒業までに、「電子辞書」と「紙の辞書」の両方を使いこなせるようにしておいてください。一生にわたって、どちらも必ず役に立ちますよ。
- * 「紙の辞書」は、ボロボロになるまで使いこなしてくださいね。ボロボロになった「紙の辞書」は、「宝物」として一生大切に繰り返し使いましょう。



—「英英辞典」にも少しずつ慣れ、使いこなそう—

- (1)「英英辞典」は、「英語の意味が英語で書いてある辞典」です。
- (2)英語の学習に少し慣れてきたら「英英辞典」を積極的に使って、できるだけ早く使いこなしましょう。
- (3)「英英辞典」にも、「入門用」「初級用」「中級用」「上級用」と、学習者のレベルに応じたものがあります。自分の英語能力に応じたものを選び、積極的に使いこなしてください。図書館や少し大きめの書店で見比べてください。
- * 英語で様々なことを表現するとき、とても役に立ちますよ。

Q 5 : 家には辞書がないのですが、どうすればよいですか。

- A : (1)「学校図書館」や「公共図書館」、「大学図書館」には、すべての辞書があります。
- (2)図書館が使えるようになったら、毎日でも図書館に行き、ありとあらゆる辞書を使いこなしてください。
- (3)「ことばは力」です。「ことばの力」を身に着けるのに一番役に立つのは「辞書」です。図書館にある「辞書」を使いこなしましょう。



Q 6 : ところで、身に着けていることばの数は多いほうがよいのですか。

A : (1) ①当然です。普段の生活をするときも、学校で授業を受けるときも、仕事や社会的活動をするときも、目の前に書いてある「ことば」の意味がわからなければ、「理解」できず先に進みません。

②他人と話をしているとき、学校で授業を聞くとき、仕事や社会的活動をするときに、そこで話され、耳にすることばの意味がよくわからなければ、「理解」できず大変です。

③ 1つ1つの「ことば」の意味がよくわからなければ、自分が考えたり、話をしたり、書いたりするときに、とても困ります。一番困るのは、「定期試験」「実力試験」「入学試験」「採用試験」「資格試験」



「国家試験」などの「試験問題」に出てくることばの意味がわからず、正解を出すことができないことです。「問題文」だけでなく、「設問」や「選択肢」などのことばの意味がわからなければ、正解を考えることができないからです。

(2) ①このように、「ことば」の「意味」を知り、「読める」「聞き取れる」「書ける」「話せる」こと、つまり、そのことばを「身に着ける」ことはとても大切です。

②「自分が身に着けていることばの数」は、「少ないよりは多いほうがよい」ことは当然です。

③ 1つ1つの教科には、教科ごとに用いられることば(語句)が 1000 語、2000 語と、1000 語単位であります。

(3) ①同様に、1つ1つの「仕事」や「社会的活動」「芸術・文化活動」にも、その仕事や活動ごとに用いられることばが 1000 語、2000 語、3000 語と、1000 語単位で出てきます。

②「こんにちは」「元気ですか」「おやすみなさい」など「あいさつ」のことばを使いこなすことも大切ですが、「生活で用いることば」「学校で用いることば」「仕事や社会的活動で用いることば」など様々な分野で用いる 1000 語単位のことばも大切です。これは、日本語だけでなく、英語をはじめすべての言語でも全く同じです。

③ですから、少し大変かもしれませんが、わからない語句に出会ったら、「気持ちが悪い」と考え、必ず辞書で調べる。そして、調べたことは「意味調べノート」や「単語カード」に書き写し、正確に読めて、書けるようにする。さらには、「意味調べノート」や「単語カード」は、いつも 1 ページ目から、1 枚目から読み直し、全部正確に覚え、正確に使えるようにする。

(4)これが、身に着けていることばの数をどんどん増やしていく方法です。



Q 7 : 最後に一言どうぞ。

A : (1)「ことば」を身に着けるときには、どのような「場面」や「状況」(これを「文脈 context(コンテキスト)」といいます)でその「ことば」が用いられるかをよく「理解」し、身に着けることが大切です。

(2)ですから、1つ1つの「ことば(英語なら単語)」ごとに「意味」や「書き方(つづり、スペリング)」を身に着けるのではなく、その「ことば(単語)」が用いられている文章も一緒に「音読練習」などを通して覚えてしまうことをおすすめします。

(3)ぜひ、チャレンジしてくださいね。

No.8「新聞を毎日読む習慣を身に着けよう」

Q 1 : 新聞は毎日読んだほうがよいのですか。

- A : (1)その通りです。新聞は、1日30分以上、毎日読んだほうがよいと「確信」します。
- (2)今回の新型コロナウイルスによる感染症の拡大についても、スマホやTVによる報道にプラスして、新聞を毎日読むことにより、かなり正確に現状を把握し、対策を考えることができます。
- (3)もし、中国に「言論の自由」、新聞を含めた「報道の自由」が、日本をはじめ欧米諸国のように保障されていたら、ここまでの感染拡大はなかったと考えるのは、私だけではないと考えます。



Q 2 : では、お聞きします。新聞とは何ですか。報道の自由とは何ですか。

- A : (1)新聞は、「社会の番犬(Watch Dog)」です。社会の中でおかしなことがあったら、「社会の番犬」としてワンワンと大きな声で吠え、「ここがおかしいよ」とみんなに知らせるのが新聞の仕事、社会的使命(ミッション)と私は考えます。
- (2)中国の1人の医師が新型肺炎の危険性を指摘し、その医師が処罰されそうになったら、中国中、いや世界中の新聞が総力を挙げて取材して「それはおかしいよ」と報道し、どんなに力を持った政府であっても、世の中を正しい方向にもっていくよう批判をしなければなりません。
- (3)この「ちょっとおかしいのではないか」という「批判的精神」を持つこと、社会に対して「警鐘」を鳴らすことこそ、新聞の真骨頂、新聞の本来の役割と考えます。

Q 3 : 小学生、中学生、高校生も新聞を、毎日30分以上読んだほうがよいのですか。また、新聞を読んで、わかるのですか。

- A : (1)私の場合、小学校4年生になったときに、クラス担任の岡典子先生から「皆さん、4年生になったので、新聞を毎日読みましょう」といわれて以来、新聞を毎日読んでいます。
- (2)小学校4年生のときには、新聞に書いてあることの全部は、よくわかりませんが、わかるところもありました。TV欄やスポーツ欄、天気予報、近くの街の記事などは、小学校4年生でもわかるものが多かったと記憶しています。
- (3)一番よくわかったのは、スポーツを含めた「報道写真」と、連載マンガ、それに投書欄でした。特に、新聞には素晴らしい「写真」が毎日たくさん出ていたので、

ワクワク、ドキドキしました。少しずつ慣れてくると、新聞の一面の下のほうにある「コラム」に面白いことが書いてあることに気付き、毎日読むようになりました。

(4) このように、新聞は小学校 4 年生でも十分にわかります。今の小学生は、皆、何十年か前の私よりもはるかに優秀です。ぜひ、小学校 1 ～ 2 年生から、わかるところだけでも OK です。新聞を、毎日読んでください。

〈保護者の皆様へのお願い〉

- (1) 家で購読している新聞で、御家族の皆様が読み終えて不要になった昨日の新聞を、お子様の勉強用に、毎日、プレゼントしてあげてください。素晴らしい教材となりますので、御協力ください。
- (2) 御家庭で新聞を購読なさっていない場合は、よくお話し合いになって購読して頂くのが一番です。勤務先や知り合いから、不要になった新聞を頂いてきて、お子様にプレゼントすることも、ぜひお考えください。
- (3) 週に 1 ～ 2 回、コンビニで新聞を買い求め、御家族の皆様が読み終えた新聞を、お子様に、教材用としてプレゼントすることも有り難く思います。
- (4) 学校図書館や公共図書館が、使用できるようになったら、週に何回か出掛けて、何種類かの「新聞」を読むように、御家庭でも御指導ください。



Q 4 : 新聞を読んだあとは、どうすればよいのですか。

- A : (1) 一番のおすすめは、興味のある記事や気になる記事を「カッターやハサミ」で切り取り、「スクラップブック」、つまり、使いかけの「ノート」や「台紙」(広告のウラでも OK)に「のり」で貼り付けて保存することです。
- (2) 保存した記事を、何回も何十回も、読み返すことです。
- (3) 記事を読み、考えたことや感じたことを書き添えてもよいと思います。
- (4) 切り取った記事をまとめて、空箱などに入れておき、あとでまとめて読むことも、「超おすすめ」です。「スクラップブック」がすべてではありません。大切なのは、気になる「記事」を切り取って保存し、何回も読み直し、自分の頭で考えることです。
- (5) 但(ただ)し、図書館の新聞はみんなのもの、「公共物」です。絶対に切り取ってはけません。お金があったらコピーする、なければ、「ノート」か「カード」に書き写すことです。



Q 5 : 新聞を毎日読んで身に着くものは何ですか。

A : (1) ①「これはちょっとおかしいのではないか」ということを、新聞の目を通して知ること、**「自分で考える力」「批判的思考(クリティカル・シンキング)能力」**が身に着きます。

②そのためには、1つの新聞だけを長期間読み続けるのではなく、時々、いくつかの新聞を図書館などで読み、「読み比べること」が大切です。

③毎日読んでいる新聞社の見方の他に、ちょっと違った見方をする新聞社もあることを知りながら、1つのお気に入りの新聞を読むことが大切です。

(2) **地域や日本、世界で何が起きているのかの最新の知識を得ることが**できます。

①「世の中の動き」を、最も正確に伝えるのが新聞だからです。

②政治・経済・国際関係・ビジネス・教育・文化・福祉・健康・旅行・趣味・映画・TV・読書など、ありとありゆる分野の情報を、新聞で知ることができます。

		5	3					
8								2
	7			1		5		
4					5	3		
	1			7				6
		3	2					8
	6		5					9
		4						3
					9	7		

③囲碁や将棋、数独、クロスワードパズル、連載小説、4コママンガ、天気予報まであります。

(3) 新聞記事の多くは5W1Hでわかりやすく書かれています。そこで、新聞を毎日読むことで、**新しい文章や情報を正確に、また、論理的・分析的に読み解く力、つまり「読解力」**を身に着けることができます。

①開倫塾のテキストや学校の教科書、教材、定期試験、模擬試験、入学試験等で、皆さんは毎日のように新しい文章に出会っています。

②その新しい文章や情報に出会ったときに一番大切なのは、それらの文章や情報を正確に、また、論理的・分析的に、一定時間内に読み解く力、つまり「読解力」です。

③新聞を、毎日30分以上読み込むことが「学習習慣」として身に着いている人は、一定時間の中で新しい文章や情報を正確に、また、論理的・分析的に読む「読解力」が身に着いています。ですから、学校の成績はよく、試験、特にトップ校・難関校の入学試験にも強いこと当然です。

④最近の「中高一貫校入試」「私立中入試」「私立高入試」「公立高入試」「大学入学共通テスト」「大学独自入試」は、問題文と設問・選択肢などを合計した文章や情報量がとても多くなっています。そのため、短い試験時間内に、大量の文章を十分に読み終えることができず、入試に失敗する例が数多く見られます。トップ校・難関校の入試対策としても、新聞を30分以上毎日読むことは欠かせません。



＜英字新聞も読んだほうがよいのですか＞



A : (1) 当然です。

- ①「英字新聞」には、中学生用、高校生用や週に 1 回発行のもので日本語の解説が入ったものがあります。
- ②まずはそこからスタートするのも、一手です。
- ③英検準 2 級に早めに合格したら、毎日発行される「英字新聞」を、毎日 1 時間以上かけて熟読することをおすすめします。

(2)「英字新聞」でおすすめの第 1 は、「読売新聞」の英語版「Japan News」です。

- ①まず、日本語の「読売新聞」を、毎日 30 分以上よく読むこと。
- ②次に、よくわかる内容のところだけで OK ですから、「読売新聞」の英語版、「Japan News」を、毎日 1 時間くらい、辞書を引かずによく読むことです。
- ③できれば、「英字新聞」は小さな声を出しながら「ボソボソ」と読みましょう。
- ④最後に、その日に一番気になる「英字新聞」の記事をカッターで切り取り、または、コピーをしてノートにのりで貼り付け、よくわからない語句は、辞書を用いて、一行一行ていねいに「精読」しましょう。
- ⑤辞書で調べたことは、「ノート」に書き写すこと。「音読練習」「書き取り練習」を繰り返し、すべて身に着けることも、確実に行ってください。

(3) 英字新聞でおすすめの第 2 は、「The Japan Times」です。

- ① 1 ～ 2 時間かけて辞書なしですべて読む。
- ②気になる記事は 1 つか 2 つカッターで切り取り、または、コピーをしてノートにのりで貼り付け、辞書で調べながら精読する。

(4) 英字新聞でおすすめの第 3 は、「The Japan Times」の中に入っている「The New York Times」です。

- ①これは内容豊富なので、2 ～ 3 時間かけて毎日読む。時間があれば、4 ～ 5 時間読む。
- ②気になる記事はカッターで切り取るかコピーをしてノートにのりで貼り付け、辞書を用いて徹底的に精読することをおすすめします。

(5)「Japan News」→「The Japan Times」→「The New York Times」と進めば進むほど、1 つの記事の長さが長くなり、記事も調査・報道といって本格的なものが多くなりますので、読み^{ごた}応えがあります。トップ校や難関校の大学や大学院の入試対策としては、^{さら}更には、TOEIC や TOEFL 対策、国際企業や国際機関の採用試験対策としては、この 3 つの英字新聞だけで十分と考えます。

*力がついてきたら、イギリスの経済週刊誌「The Economist」がおすすめです。常にカバンに入れて持ち歩き、時間があったら気になるテーマや国・地域の記事だけでも毎日お読みください。1 日 1 回気になる記事を辞書で調べ、全部覚えると驚くほどの英語力が身に着きます。



No.9「読書の習慣を身に着けよう」

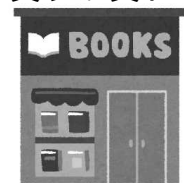
Q 1 : どのような本を読んだらよいのですか。

- A : (1)自分の読みたい本、つまり、自分の好きな作家や興味のある分野を読みたいだけ読むのが一番です。
 (2)そうは言っても、何を読んだらよいのか考えている人には、いろいろな分野で以前から読み伝えられている本がおすすめです。
 (3)各分野で「古典」と呼ばれる本は特におすすめです。



Q 2 : 具体的に教えてください。

- A : (1)「学校の各教科の教科書で紹介している本」が、おすすめ本の第1です。この本だけは読んでほしいという代表的な作品を、各教科書の編集者の先生方が選び抜いて紹介しているからです。
- (2)「御家族の方、開倫塾や学校の先生がおすすめしている本」が、おすすめ本の第2です。今までの人生を振り返って、自分が読んだ本の中で、この時期の皆様には、ぜひ、読んでもらいたいと考えて推薦して下さるものだからです。
- (3)「学校図書館や公共図書館に置いてある本」が、おすすめ本の第3です。どちらの図書館にも、図書館の専門家である図書館司書の先生が選んでくださった本が、わかりやすく分類されて置いてあるからです。
- (4)「新聞や雑誌、TVやラジオ、インターネットなどで紹介された本」の中にも、おすすめの本があるかもしれません。1つ1つのメディア(媒体)の信頼性をよく考えて、参考にしてください。私も担当する CRT「開倫塾の時間」というラジオ番組の中で、時々おすすめする本を紹介しています。
- (5)「書店に行き、直接本に触れ、内容を見て、読むか読まないか、買うか買わないかを決めること」も大いにおすすめします。(ただし、お金に余裕があればですが…)
- (6)本屋さんの中には、「ブック・オフ」など中古本専門の本屋さんもあります。時々、「中古本の本屋さんに出掛け、読みたい本を選ぶ」のも面白いと思います。
- (7)友だちや知り合い、親せきの人などが持っている本を借りることもあるかもしれませんが、返し忘れたり、傷つけたりすることもあります。ですから、「本の貸し借りはできるだけ避ける」ことをおすすめします。



Q：林さんがおすすめする本は何ですか。

A：(1)内村鑑三著「後世への最大遺物・デンマルク国の話」「代表的日本人」(どちらも岩波文庫)です。
(2)福沢諭吉著「福翁自伝」「学問のすゝめ」(どちらも岩波文庫)もおすすめです。
(3)小説でおすすめなのは、夏目漱石著「ぼっちゃん」「吾輩は猫である」「三四郎」「それから」です。
(4)中国の古典「四書五経」のうち、「四書」と呼ばれる「論語」「孟子」「大学」「中庸」は、何回読んでも面白く、ためになります。「君子」と呼ばれる仁、徳がそなわった「立派な人」になりたいと希望する人は、教科書として一生読み続けてくださいね。

Q3：どのように本を読んだらよいですか。

A：(1)「本の読み方」「読書の仕方」には「スピードをどんどん上げて読む」「速読」と、「じっくりと腰を落ち着けて、一語一語かみしめながら読む」、「精読」の2つがあります。
(2)スピードをどんどん上げて読む「速読」は、推理小説や冒険小説、旅日記、歴史小説、エッセーなどに向けた本の読み方です。面白くてわくわくし、爽快感の連続となります。
(3)人生とは何か、ものごとの本質とは何か、歴史や社会、経済、文化の真相とは何かなど、「本質的内容」についての本は、スピードをどんどん上げて読む「速読」では何が何だかサッパリわかりません。人生は長いですから、本を読むのにあせることはありません。一語一語ていねいにじっくり読む。「著者との時空を超えた対話」をするようなつもりで行きつ戻りつし、考えながら読む「精読」が向いています。
(4)「速読」と「精読」、この2つの読書の仕方をうまく組み合わせ、自分なりの読書の仕方を考えることをおすすめします。

Q4：本は声を出して読んだほうがよいのですか。「音読」したほうがよいのですか。それとも黙って読む「黙読」のほうがよいのですか。

A：(1)頭の中でどんどん理解して、先へ先へ進んだほうがよい本は、黙って読む「黙読」をおすすめします。
(2)しかし、一語一語理解しながら味わいながらじっくり読む本は、声を出して読む「音読」をおすすめします。
(3)「黙読」している本でも、大切なところは声を出してゆっくり読む。「音読」している本でも、早く先へ進みたければ黙って読む。このように、「音読」と「黙読」をうまくミックスしてくださいね。



Q 5 : 本は一体何回読むのがよいのでしょうか。

A : (1) 簡単な本は 1 ~ 2 回、大切な本は、時間をじっくりかけ、間をかなり空けて、5 ~ 6 回は読むことをおすすめします。

(2) 「論語」や「般若心経」、「聖書」など、毎日、声を出して読むに値する本も、たくさんあります。

(3) 優れた本ほど、読むたびに新しい何かをその中に見出すことができます。新しい自分自身をその中に発見することができます。これぞという本は何回も読む。何十回、何百回も読み返し、自分のものにしましょう。



Q 6 : 本を読んで身に着くものは何ですか。

A : (1) 本を読んで身に着くのは、「深く考える力」、つまり「^{しりよぶか}思慮深さ」と、「自分自身を振り返る心」、つまり「^{じせい}自省心」だと私は考えます。

(2) 本を読んで、「著者との時と場所を超えた対話(時空を超えた対話)」を行う。それにより、「ああ、そうか。このような考え方、生き方もあるのだ」という「新しい発見」をすることができます。「深くものごとを考える力」、「思慮深さ」や、「振り返る心」、「自省心」を育むことができます。

(3) 「本をよく読む人」は、「ものごとを深く考える」、「ことばに重みがある」、「思慮深さ、自省心がある」といわれるのは、このような理由からです。

Q 7 : 本を読むこと、つまり、読書は学校の勉強や受験勉強に関係があるのですか。読書は学校の成績や入学試験に関係があるのですか。

A : (1) オー、きましたね。答えは、関係がある、大いに関係があります。本を読むこと、「読書は、学校の勉強や入試そのものだ」と私は確信します。信じて疑いません。

(2) なぜか。「本を読めば読むほど、本格的な読書をすればするほど、本を正確に、また、論理的・分析的に読む力がどんどん身に着く」からです。文章や情報を「読むスピード」も当然上がります。

(3) この「本格的な読書」で、難しい内容が含まれる教科書や教材、定期試験や模擬試験、入学試験や資格試験の「大量の文章を、正確に分析的に読み解く力」、つまり、「読解力」を身に着けることができます。「試験時間内に読み切るスピード」も身に着きます。

(4) この「読解力」こそ、学校での勉強や入学試験に向けての受験勉強で最も求められるものです。特に、試験時間内に問題文・設問・選択肢などすべてを読む力が求められます。

(5) 学校の各教科の出題予想問題を用いた定期試験対策・要約教材や過去問などを用いた入試対策のときに、長文化しつつある試験問題を時間内に正確に、分析的に読み解くことのできる「読解力」が不足しては、いくら勉強してもよい点数、合格点は取れません。そうであるからこそ、開倫塾では「辞書」「新聞」「読書」を活用して、学校の勉強や定期試験・模擬試験、トップ校・難関校を含む第 1 志望校の入学試験にも耐えられる「読解力」を身に着けようと、創業以来 42 年間、訴え続けているのです。

Q 8 : 「辞書」「新聞」「読書」を活用して、学校の勉強や定期試験・模擬試験、トップ校・難関校の入学試験にも耐えられる「読解力」を身に着けようとはどういうことですか。

A : (1) ①例えば、皆さんが病気にかかったときに、近くのクリニックや急性期の患者のための大きな病院を訪ねたとします。

②診察や検査をして、必要な手当て、手術、薬の処方をして頂くだけで病気は完治するかといえば、否です。

③十分な休養、十分な栄養、十分な睡眠、適度な運動、リハビリ、気分転換などが必要です。お医者さんによる手当て、手術、薬の処方以外に、必ず守って行わなければならないことがたくさんあります。一定の期間、口にしてはならない食べ物もあります。成人であれば、アルコールやタバコは絶対禁止の病気もあります。

(2) 「辞書」「新聞」「読書」を活用して「読解力」を身に着けることは、病気になったときに、お医者さんによって行われる手当て、手術、薬の処方以外にしなければならないことと、全く同じです。そのように考えてください。



(3) 定期試験対策や入学試験対策だけしていても、「読解力」なしでは、入学試験はもちろん、定期試験や模擬試験でもよい点数は取れません。

(4) 言い換えれば、定期試験でよい成績を取り、模擬試験でよい偏差値を確保し、入学試験でトップ校・難関校を含む、入るのが難しい学校に合格したければ、「辞書」「新聞」「読書」を毎日活用して、「読解力」を身に着けることに励むことです。

(5) カバンの中には、常に「辞書」と昨日の「新聞」(高校生は「英字新聞」も)、「お気に入りの本を1冊」入れておき、折に触れて慣れ親しみ、最大活用することです。この3つは「読解力」を身に着けるための「三種の神器」です。

(6) 特に、受験学年を迎える塾生の皆様は、これから1年間、「辞書」「新聞」「読書」を最大活用すれば、驚くほどの「読解力」が短期間に身に着きます。塾生全員がトップ校・難関校を含む第1志望校に合格を果たすことができます。合格後も「辞書」「新聞」「読書」の活用を継続すると、素晴らしい学校生活・社会に出てからも充実した生活が送れます。ぜひ、挑戦を。

保護者の皆様も、ぜひ、この「読解力」の重要性を御理解頂き、「辞書・新聞・読書の活用」に御協力ください。

<ここでちょっと一休みコーヒーブレイクNo. 7>

Q : 「辞書・新聞・読書」に親しむことは、私立中入試、公立中高一貫校入試はもちろん、県立高特色選抜や都立高推薦入試、高専推薦入試、大学指定校入試、大学推薦入試などに役立ちますか。

A : (1) もちろん、すべて役立ちます。

(2) 各学校の入試が「OECDのPISA型」になっていますので、学力試験での資料・情報を含む「テキスト」を正確に、また、分析的に速いスピードで読み解き、課題解決の手法で正解を導くには、「読解力」と同時に、「辞書」で得られる「十分な語彙力」、「新聞」で得られる「自分で考える力」「批判的思考能力」、「辞書」で得られる「思慮深さ」「自省心」が不可欠であるからです。

(3) また、「辞書・新聞・読書」に親しむことにより得られた「読解力」は、「筆記試験」、「面接試験(個人面接・集団討論)」、「作文・論文試験」のすべてで役立ちます。

*字をていねいに美しく書く訓練にもなります。

No.1 0「勉強の仕方『学習の3段階理論』を身に着けよう」

—学習効果＝学習時間×学習方法—

Q 1 「**学習効果**」＝「**学習時間**」×「**学習方法**」、このかけ算は何ですか。

A : (1)はじめに、上のかけ算を紹介します。「学習効果」は「学習時間」×「学習方法」という「かけ算」で生み出されますので、いくら長い時間勉強しても、学習方法が「ゼロ」でまずければ、答えは「ゼロ」、つまり学習効果は「ゼロ」ということです。

(2)逆に、いくら効果の上がる学習方法を知っていても、実際に時間をかけて実行しなければ、学習効果は「ゼロ」です。

(3)まずは「学習効果」を生み出す「公式」として、よく理解し、使いこなしてくださいね。



Q 2 : 勉強の仕方は身に着けたほうがよいのですか。

A : (1)サッカーやバスケットボールをするときに、サッカーやバスケットボールの仕方を身に着けないで行ったらどうなるか。試合に出て勝つことなどできないし、友だちとサッカーやバスケットボールで遊ぶことすらあまりよくできません。

(2)同じように、勉強をするときに、勉強の仕方を身に着けずにするとうどうなるか。試験でよい点数を取ることも難しいし、試験に合格することもまずできません。それどころか、学校の授業もさっぱりわからないことすらあります。

(3)では、どうしたらよいか。サッカーやバスケットをするときに、サッカーやバスケットの仕方を身に着けるために様々な取り組み(トレーニング)をするのと同じように、勉強をするときにも勉強の仕方を身に着けるための「勉強」(トレーニング)をすることが求められます。



Q 3 : では、お聞きします。「勉強の仕方を身に着ける」にはどうしたらよいのですか。

A : (1)2023年に創業44周年を迎える開倫塾では、今までの経験を踏まえて効果の上がる勉強の仕方を開倫塾の「学習の3段階理論」として、塾長が中心となって取りまとめています。

(2)その内容をこれからお話いたしますので、どうかゆっくりと、一語一語行きつ戻りつし、よく「理解」しながらお読みください。何回か読み直して頂ければ、少しずつ納得して頂けると思います。

(3)よく納得して頂けたところから少しずつ実行してください。少しずつでもOKですから、できそうなところから身に着ければ、必ず、御自身のものとして活用して頂けるようになると思います。

Q 4 : 「学習の3段階理論」は、どのように生まれたものですか。

A : (1) 塾長である私は、大学や大学の研究室に在籍し、学習塾や予備校の講師・家庭教師などをしていました。その期を含め、開倫塾を創業してからも、数多くの塾生や保護者、地域社会の皆様が学習面で一番お困りになっているのは、「効果の上がる勉強の仕方」がわからないことだということに気付きました。高校や大学、短期大学、専門学校、専修学校、大学院などに進学した後も、^{さら}更には、社会に



- 出てから様々なことを学ぶ際にも、どのように勉強したらよいのか、少なからず悩んでいる人が多いのに気付きました。勉強の仕方がわからないために、夢や希望をあきらめる人も数多くいることを知りました。どこに行っても、また、どんな人にも会っても「勉強の仕方」がよくわからなくて困っているとお聞きしていたからです。
- (2) 社会人も含め「勉強の仕方」についての御質問を頂く^{たびごと}度に、質問をなされた方に応じた「効果の上がる勉強の仕方」をお話していました。勉強の仕方についてお困りの方、お悩みの方があまりにも多いので、そうであるならば、私自身が考えた「効果の上がる学習方法」を1つにまとめて、皆様に説明することが、皆様のお役に立つのではないかと考えました。
- (3) そのようにして取りまとめたのが、これからお話する「学習の3段階理論」です。40年以上前から皆様に説明させて頂いているものですので、その基本は変わりません。ただ、毎年、毎年書き直していますので、お役に立つ度合いは少しずつ上がっているものとひそかに思っています。これからお話するのは、2022年3月17日(木)の最新版です。

Q 5 : それでは、お聞きします。「学習の3段階理論」とはどのような内容ですか。

- A : (1) 勉強、つまり「学習」を「理解」、「定着」、「応用」の「3段階」に分け、各々の「段階」にふさわしい「学習の方法」を具体的にお示ししたものです。
- (2) 「理解」とは、今、学んでいることが「よくわかること」「うんなるほどと、納得できること」「^ふ腑に落ちること」です。
- (3) 「定着」とは、「一度うんなるほどとよくわかったこと」、つまり「理解したこと」を、自分のものとして「身に着けること」です。
- (4) 「応用」には、2つの内容があります。
- ① 1つ目は「テストでよい点数(学校の定期試験などでは100点満点、入試などでは合格点)が取れること」
 - ② 2つ目は「社会で役に立つこと、活用できること」です。

* 「学習の3段階理論」では、「身につける」は、漢字で書く場合には「身に着ける」と、「定着」の「着」に準じて「着」を用いて表記します。予め御了承ください。



第1段階「理解」とは

Q 1 : 第1段階の「理解」で大切なことは何ですか。

- A : (1)よく考えると、「うんなるほど」と「よくわかる」、「理解」するのはどのような場合があるか。次のようにいくつかあります。
- (2)①「予習」をしているとき、②「先生やいろいろな人から教わっているとき」、③一度学んだことを「復習」したり「定着」させているとき、④教科書や参考書、問題集などで勉強しているときなど様々です。
- (3)これらを「〇〇先生はじめ、人から教わるとき」と「自分一人で勉強するとき」の2つに分けて、各々の場面での「理解」の仕方をこれから御説明いたします。どうかゆっくりと、お読みくださいね。

<効果の上がる授業の受け方>とは

Q 2 : 学校や開倫塾の授業など、教室などでの授業で先生方から教えて頂き、「理解」するときはどうしたらよいでしょうか。<効果の上がる授業の受け方>を教えてください。

A : わかりました。まとめてお話しますので、ゆっくりお読みください。

<「効果の上がる授業の受け方」>

- (1)①授業が始まる前に教室に行き、できるだけ先生の近くの座席に着席する。
* 授業に使う教室が空いていたなら、できるだけ早めに教室に行き、それまでに学んだ内容をテキストやノートをういて1ページから一通り「復習」。
- ②できるだけ早めに教室に行き、授業時間までは、それまでの学習内容について「復習」する。「教科書」や「ノート」などを1ページ目から音読や黙読などで読み直す。頭をフル回転させて「授業に臨む」。
- ③トイレは、できるだけ授業前や自宅で済ませる。
* ただし、授業中でもトイレに行きたくなったら、遠慮しないでトイレを使用する。
* 十分な手洗い、うがいもする。この時期は、「マスク」も必ず着用する。
- (2)①欠席・遅刻・早退は、体調の悪いとき以外はなるべくしない。
②授業中は、スマホ・ゲーム・ラインなどを絶対にしない。授業に関係のないことはしない。居眠りもしない。
③おしゃべりや私語は、他人の迷惑・授業の妨害になるので絶対にしない(「お口にチャック」です)。
- (3)①授業中は、手を机の上に置き、先生の^{くちもと}口元と目を見て、一語一語真剣に先生のお話をお聞きする。
②先生の指示により、議論やグループワーク、ペアワークなどに積極的に参加する。
* お話をするときや発言をするときには、相手の目を見て、ゆっくり、ていねいに、語尾がよく聞こえるように発音する。
* 相手の意見を聞くときには、相手が最後まで話し終えるのを待つ。長すぎるようなら、「ちょっと失礼ですが、お話してもよいですか」といって、発言の機会を得る。
- ③大切なことは、必ず、「ノート」に「メモ」を取り続ける。
* 「ノート」の活用の仕方は、あとでまとめてお話します。



＜自分一人で勉強し、「理解」する方法とは＞

Q 3 : それでは、「自分一人で勉強」し「理解」する場合についてお話してください。

A : (1)自分一人で勉強する場合の第 1 は「予習」ですので、最初に「予習の仕方」についてお話します。

* 「予習の仕方」については、「開倫塾 12 の躰プログラム」の No.1「次学年の予習をして、新学年に臨もう」で詳しく説明しました。せっかくですので、今回も、その内容を少しまとめてお話をいたします。

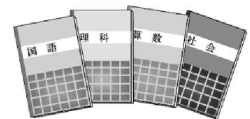
- ①「予習」とは、「これから勉強する内容について、授業の前に予め勉強すること」を意味します。
- ②ですから、「予習」には、学年が始まる前に行う「予習」、学期が始まる前に行う「予習」、次の月、次の週の授業の「予習」、明日の授業の「予習」、今日の授業の「予習」など、いろいろな「予習」があります。
- ③要するに、これから行われる授業について、予め習う(学習)しておくことが「予習」です。

(2)なぜ「予習」をしたほうがよいのでしょうか。

- ①これは、バスや列車、自動車に乗って、又、歩いて目的地に行くのに、どのように行くのかを予め考えてから行くのと同じです。予めどのような方法で目的地に到着するのかを調べ、考え、頭の中に入れておくと、道に迷うことが少なく、時間通りにスムーズに到着できます。
- ②皆様は、テレビ東京で放送されていた「太川さんと蛭子さんの路線バスの旅」やテレビ朝日の「徳光さんの路線バスで寄り道の旅」という番組を御存知でしょうか。予め計画が立てられていない路線バスの旅は、目的地に時間通りに到着するのがなかなか難しいと考えます。



- ③学校や開倫塾の授業を受けるときに、その日の授業内容について学校の教科書や開倫塾のテキストを予め学び終えてから、つまり、「予習」してから出席すると、「授業の内容がよくわかる」こと、「当然」といえます。



- (3)①授業に出席して、先生から新しい内容を初めて教えて頂くよりは、自分の力で「予習」をしてよく勉強し終えてから授業に出たほうが、はるかに先生の教えてくださる内容がよくわかります。よく「理解」できます。「うん、なるほど」「これはこういうことか」と「納得」し「腑(ふ)に落ち」ます。
- ②授業中によくわかり、よく「理解」したければ、できるだけ十分に時間をかけ、その日の授業内容を「予習」したほうがよいのは、このような理由のためです。

Q 4 : 「予習をすると授業の妨げになるから予習はしないように」という考えがありますが、どうお考えですか。

A : (1)①その考えには、それなりの理由があります。

- ②「予習」をして授業に臨む人の中には、「そんなこと知っている」といって授業中に自慢をしたり、
- ③「先生の教え方は、予習をした本と違っていておかしい。間違っている」などと、先生に文句をいったりする人がいるからです。

- (2)①これは、自慢をしたり、文句をいったりする人が「授業のエチケット」を心得ていないためです。
- ②「予習」をきちんとすればするほど、授業の内容を授業前によく知っているのは「当たり前」です。
- ③それを授業中に、皆の前で自慢するのは「エチケット」に反し、場合によっては「授業の妨げ(授業妨害)」になります。厳に慎みましょう。
- (3)①又、「予習」のときの参考書などの説明と、授業中の先生の説明の仕方が少し異なるのはよくあることです。一つのものを説明するのにいろいろな説明の仕方があるのは、よくあることだからです。
- ②例えば、同じ家の形を説明するのに、真正面から見た様子、真上から見た様子、左側面から見た様子、右側面から見た様子、真裏から見た様子、ななめ右から見た様子、ななめ左から見た様子など、すべて異なります。**ものごとは、見る方向、見方が異なると、見え方が異なります。**
- ③同様に、同じことを説明するのに、少しでも観点(見方)が違うと、説明の仕方が異なります。「予習」のときに学んだ説明と、授業中の先生の説明が違って、文句をいうことはおかしいといえます。
- ④但(ただ)し、どうしても納得がいかなければ、授業中に手を挙(あ)げて「こういう考えもあるのではないですか」などと質問することをおすすめします。又は、授業後に、先生のお許しを得て質問するとよいと思います。
- ⑤自分の「予習」した説明と、先生の説明が違うからといって、「先生の授業は間違いだ」と断定し、授業や先生を批判することは止めましょう。



Q 5 : どのように予習をすればよいのですか。

- A : (1)①「教科書や教材、問題集、指定された資料のすべてを、授業開始までに一通り読み、書いてある内容をすべて、うんなるほどとよくわかる、納得するまでにすること」、つまり「理解」することが「予習」の基本です。
- ②そのために一番よい方法は、「予習」すべき文章や内容、情報を、一語一語、一つ一つていねいに読むことです。
- ③読んでいてよくわからない「語句」があったら、「気持ちが悪い」と考え、辞書や用語集、学年別・分野別の参考書、教科別の辞典、インターネットなどを開いて調べることです。
- (2)①調べたことは、ノートやカードに書き写して、どのような内容かを十分に納得、つまり、うんなるほどと「理解」すること。
- ②うんなるほどとよく納得、「理解」できた「語句」は、よく読めるようにすることと同時に、よく書けるようにすること。そして、その場で覚えてしまうことです。
- ③書いてあることがよくわからなかったら、スラスラとよく読めるようになるまで、声を出して読む練習(音読練習)をすること。「音読練習」が済んだら、よ



く書けなそうな語句は、正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をすることです。

*「予習」として「音読練習」と「書き取り練習」をし、スラスラとよく読めるようにすること、何も見ないでいえるまでにする「暗誦(あんしょう)」、何も見ないで正確に書けるまでにする「暗記(あんき)」を目指しましょう。

(3)①「計算」や「問題」は、必ずノートに解きましょう。

②問題文もノートに書き写すこと。

③計算や問題を解く過程(途中の式や計算)もすべてノートに書き写しましょう。

*「予習」をするときのノートは左側のみを用い、右側はすべて授業用や復習用に空けておきましょう。



Q 6 : 計算や問題が解けなかったらどうすればよいのですか。

A : (1)解答や途中の計算などを書くスペースを空けておきましょう。

(2)①いくら考えてもわからなければ、参考書や各教科の辞典(例えば、小学算数辞典や中学数学辞典、高校数学辞典など)で似たような問題(これを「類似問題」といいます)を探し、解いてみましょう。

②類似問題を自分で解いてみて、解き方がわからなければどうするか。

③解き方や途中の計算を、「先生の授業を聞くような謙虚(けんきょ)さ、素直な心」で、なぜそのような解き方をし、解答になるのかをよく考えながら、ノートに、ていねいに書き写すことをおすすめします。

(3)①このように「類似問題」を勉強したあとに、授業の「予習」をしていて解くことのできなかつた計算や問題にもう一度挑戦。ノートに解き方・途中の計算も含め書き残しておきましょう。

②それでも解き方や解答がよくわからなければ、「よくわからなかったよ」という、自分自身で考えた「印(しるし)」を、ノートや教科書の「問題番号」の上に付けておき、授業中の先生の説明をよく聞きましょう。

③このように、「予習をしてよくわからなかったところをはっきりさせて、授業に臨む」ことが大切です。

「予習とは、よくわからなかったところをはっきりさせて、授業に臨むために行うもの」

*これを「予習の目的」にしてくださいね。

Q 7 : なるほど。予習をしていてよくわかる、つまり、「理解」できることもたくさんあるということですね。

A : (1)その通りです。ちょっと先走(さきばし)ってしまい、失礼しました。

(2)「予習」をして、うんなるほどよくわかるところ、つまり「理解」できるところは、計算や問題の解き方も含めてなぜそうなるのか、そう考えるのかも「理解」してしまうことです。

(3)また、「予習」をして身に着けられる、「定着」できるものは、予習の段階で「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」などを繰り返して、すべて身に着け

てしまう、「定着」させてしまうことです。

(4)おわかりでしょうか。ここまで予習をして、授業に臨むことです。どこまで細かく、また、深く予習しても、予習しすぎることはありません。知りたいと思ったら、どんどん先へ、先へと、自分の力で勉強を進めることです。小学生が中学校や高校の勉強をする、中学生が高校の勉強をする、高校生が大学の勉強をするのは、「予習」を本格的にしていけば、誰でもすることです。予習に遠慮は一切ありません。知りたいこと、学びたいことがあればどんどん勉強してください。



Q 8 : それでは、自分で行う勉強として、「復習」による「理解」の仕方を教えてください。

A : (1)復習とは、「授業で習った内容を、授業後にもう一度おさらいをすること、つまり、もう一度学び直すこと」です。

(2)では、何を用いて行ったらよいか。「復習」で用いるものは、3種類あります。

- ①授業で用いた教科書、テキスト
- ②授業中に用いたプリント、資料教材、問題集
- ③授業中に取ったノートやメモ

(3)これら3つのものを用いてどのように「復習」し、うんなるほど「理解」したらよいか。

①教科書やテキスト、プリントや資料教材は、授業で学んだ範囲を、授業を思い出して一語一語かみしめながら、どのような内容なのがうんなるほどよくわかるまでよく読むこと。できれば、声を出して読むこと。



②読んでいて意味や読み方がわからない語句があったら、「気持ち悪い」と考え、辞書や用語集、学年別・分野別の参考書、インターネットなどで調べること。調べたことは「意味調べノート」や「単語カード」などに書き写すこと。

③書き写したら、その「語句」とその語句の「意味・内容」がスラスラとよく読めるようになるまで声を出して読む練習をすること。スラスラとよく読めるようになったら、正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をすること。1日1回は「意味調べノート」や「単語カード」などを1ページ目、1枚目から声を出して読み返し、すべて正確に覚えて、正確な意味・内容を知っている語句の数を確実に増やすこと。

④このようにして、どのような意味・内容かがわかった教科書やテキスト、プリントや資料教材などは、スラスラとよく読めるようになるまで「音読練習」、正確に書けるようになるまで「書き取り練習」を繰り返すことです。

(4)①授業中に一度解いた「計算や問題」はどうしたらよいか。まずは、解答を見ずに、必ず、もう一度解き直すことです。

②解答が間違えていたら、なぜ間違えたかをよく考えて、もう一度解き直すこと。

③なぜそのような解答になるかわからなかったら、よくわかるまで、解答集や教科書、テキスト、参考書などを用いて調べること。

④それでもわからなければ、わかるまで友だちや先生に質問することです。

(5)復習のときには、「ノート整理」をしましょう。

①「ノート整理」とは、授業中に取った「ノート」の中で

⑦「大切なところに線を引く」

⑧「大切なところは線で囲む」、見やすくしてあとで勉強しやすくすることです。

②「見出し」をつけたり、「必要なことを書き加える」ことも、大いに行ってください。

③「ノート整理」の目的は、「授業中に取ったノート」を、あとで勉強しやすいように、見やすいように工夫することです。

*「ノート」は英語で notebook といいます。が、「授業ノート」を工夫して、自分で作った本「My Notebook」にしてください。

(6)このように授業内容を「復習」することにより、「理解」が更(さら)に深まります。

—くこまでのまとめ：「復習」による「理解」の仕方—

(1)授業による「理解」

(2)自学自習(自分一人で行う勉強)による「理解」

①「予習」

②「復習」



(7)もちろん

①「理解」の次に行う「定着のための3大練習」をしているうちに、「理解」が深まることもあります。

②さらには、「理解」→「定着」したあと、「応用」としてそれらを用いて問題を解いたり、社会で用いたりしている間に、「理解」がさらに深まることもあります。

③小学校・中学校・高校で学んだ内容を、大学や大学院でもっと専門的に学び、さらには、社会の専門領域で用いるなど社会に出てからも勉強を深めると、「ものごとの本質を理解」することに近づきます。(これを「本質的理解」といいます)

*「同じことでも、学べば学ぶほど奥深い」ことは、世の中には山ほどあります。

小学校・中学校・高校の教科書に出ているような内容を、もっともっと深く学ぶには

(1)参考書があります。参考書には3つの種類があります。

①「まとめ」の参考書

②教科書の内容を「やさしく説明」してある参考書

③教科書の内容を「かなり細かく、詳細に説明」してある参考書

*「教科別の辞典」もあります。



(2)「新書本」や「文庫本」で教科書の各項目がかなり深く、しかし、やさしく説明してある本もたくさんあります。

①代表例は「講談社ブルー・バックス」という新書版シリーズです。

②「岩波ジュニア新書」もかなりそろっています。

③「講談社学術文庫」や「ちくま学芸文庫」も有用です。

④少し大きめの書店、本屋さんや、学校図書館や公共図書館で、勉強に役立つ、また、自分のお気に入りの「文庫本シリーズ」や「新書本シリーズ」を探してみましょ。とてもためになりますよ！

〈第3章〉第2段階「定着」とは

Q 1 : 「学習の3段階理論」の「第2段階」である「定着」とは何ですか。

A : (1) 「定着」とは、うんなるほどとよく「理解」できた内容を、「正確に身に着けること」です。

(2) ですから、「定着」の前提は「理解」です。「読書百遍意自(おの)ずから通ず」「習うより慣れろ」という考えもありますが、できれば、まずは、よく「理解」する努力・取り組みをしてから、次に、正確に身に着ける「定着」のための努力・取り組みをすることをおすすめします。

(3) なぜなら、よく「理解」しないで、覚えるだけ覚えるというよりは、十分に「理解」した上で、正確に用いることができるまで身に着ける・「定着」させるほうがよいと考えるからです。

Q 2 : 「定着」のためにはどのような努力・取り組みをしたらよいのですか。

A : 3つあります。



(1) ①まず第1は、「声を出して読む」ことです。

②「声を出して読むこと」を「音読」といいます。

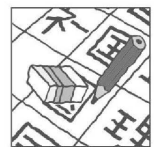
③「学習の3段階理論」で最もおすすめしているのが、「音読練習」による「定着」です。

(2) では、どの程度まで声を出して読む「音読練習」をしたらよいか。

①第1目標は、「スラスラと、よく読めるようになるまで音読練習をすること」です。

②スラスラと、口をついて出てくるようになるまで、教科書やすべての教材や授業のノートなどを読む練習、「音読練習」を繰り返すことです。

(3) そして、大切なところは、「何も見ないでスラスラといえるまでにすること」です。これを「暗誦」(あんしょう)といいます。大切なところは、「暗誦」できるまで「音読練習」をする。これが「音読練習」の第1目標です。



Q 3 : 「定着」のためにしたほうがよいことの2番目は何ですか。

A : (1) ①「書き取り練習」です。

②「書き取り練習」とは、「書き順も含めて正確に書けるようになるまで、繰り返し書き取りの練習をすること」です。

(2) ①「国語」の教科書で書き取り練習をすべきは、平仮名(ひらがな)と、新しく習うように指示された「漢字」だけではありません。

②「国語」だけでなく、数学も含め、「すべての教科」についても、今までに習ったことはあるが、正確に書くのが難しそうな漢字や、すべての教科の教科書やテキスト、教材、資料集、問題集、授業のノートなどに出てきた語句で、よく覚えていないものはすべて「書き取り練習」の対象です。

③「すべての教科」について、人名や地名はじめ、ものの名前など「固有名詞」もすべて正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をして、「定着」させてください。

- (3)①「英語の綴(つづ)り、スペリング」は、正確に書けるまでにしてください。
- ②英語は、「ブロック体」だけでなく、美しい「筆記体」でも書けるようになるまで書き取り練習をしてください。
- ③英語の「筆記体」を書く練習をしておく、と、「筆記体」の文字を読むときに便利です。(「筆記体」を書く練習をすることで、「筆記体」に慣れ親しみ、筆記体で書かれた文字を読むときに役に立ちます。)又、「ブロック体」しか書けないと、自分の名前などサインするときに、サインを簡単に盗まれ、犯罪の被害者になることもあります。せめて、自分の名前だけは美しい「筆記体」で書けるようになるまで、「書き取り練習」をしましょう。(自分の名前が「筆記体」で書けない人は、学校や開倫塾の先生に頼んで、お手本を書いてもらいましょう。ゆっくり何十回か練習すれば、少しずつ書けるようになりますよ。)
- (4)①「書き取り練習」の目標は、「一度覚えた語句や文章を何も見ないで書くことができること」です。これを「暗記」といいます。
- ②「音読練習」をして、何も見ないでスラスラといえるようになるまで「暗誦^{あんしゅう}」したら、次は「暗誦」した内容を、何も見ないで正確に書けるまで「暗記」することを目指しましょう。
- ③「書き取り練習」をするときには、「書き順」も正確に覚えましょう。また、誰が読んでも読みやすい文字、教科書で用いられている書体、「楷書^{かいしよ}」で書くことを心掛けましょう。
- *文字にうまい、へたはあるようですが、まずは、誰が読んでもわかる文字、「楷書」でていねいに書くことを目指しましょう。「ていねいに書く」ことを心掛けていけば、テストで減点されることも少なくなります。
- (5)第2段階の「定着」のために「音読練習」と「書き取り練習」を繰り返すことで、「理解」した内容を正確に身に着けることができます。



Q4 : 「定着」のためにしなければならないことの3番目は何ですか。

A : (1)「計算・問題練習」です。

(2)「計算・問題練習」とは、「一度なぜそのような解き方をし、解答になるかを十分に『理解』した計算や問題について、その計算や問題を見た瞬間にパツ、パツ、パツと条件反射で正解を導き出せるまで、繰り返し練習すること」です。

(3)これが「計算・問題練習」です。



Q5 : 例えば、どういうことですか。

A : (1)①例えば、 2×3 という計算問題を見たら、条件反射で6という答えが出るまで「九九の練習」をすることです。

②又、例えば、 $(a + 9)(a - 9)$ という問題を見たら、条件反射で $a^2 - 81$ という答えが出るまでにすることです。この前提は、 2×3 や $(a + 9)(a - 9)$ の意味がよくわかっていることです。

(2)①2に3をかけるとなぜ6になるかがわかっている、「理解」していることです。

②又、 $(a + 9)$ と $(a - 9)$ をかけるとなぜ $a^2 - 81$ になるかがよくわかっている、「理解」していることです。

(3)① 2×3 や $(a + 9)(a - 9)$ の意味がわからないのに、6 という答えや $a^2 - 81$ という答えだけ覚えても何の意味もありません。

②このように、まずは、なぜそのような答えになるのかを十分に「理解」すること。



③その上で、 $2 \times 3 = 6$ 、 $(a + 9)(a - 9) = a^2 - 81$ というように、「計算・問題」を見た瞬間にパツ、パツ、パツと正解が出るまでにすることが大切です。

Q 6 : 何を使って、この「計算・問題練習」をすればよいのですか。

A : (1) 今までに自分で解いたすべての計算や問題を用いて、「計算・問題練習」に挑戦しましょう。



(2) この練習をするのに一番よいのは、教科書や問題集、定期試験や模擬試験などで「一度解いて間違えた計算や問題」です。

(3) この練習を行うことで、一気に不得意な計算や問題を減らすことができます。くれぐれも、なぜそのような答えになるのかを十分に「理解」してくださいね。

* 「テストやその解答は、すべてファイルに保存しておくこと」が大切です。保存していなければ、もう一度やり直すことはできません。

Q 7 : なるほど。「学習の3段階理論」の「第2段階」の「定着」には、「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」という3つの「練習」があるのですね。



A : (1) その通りです。「学習の3段階理論」では、この3つの練習を「定着のための3大練習」と呼んでいます。

(2) ちなみに、慶應義塾塾長の小泉信三先生は、「練習は不可能を可能にする」という「ことば」(名言)を残されました。

(3) 「定着のための3大練習は、不可能を可能にする」と考えます。

①一度、うんなるほどと十分に「理解」したものは、「予習」のときでも、「復習」のときでも、いつでもOKですから、「定着のための3大練習」をこまめに行い、すべて正確に身に付けてください。

②あやふやであった「知識」が、すべて正確に身に着きます。

③一度学んだが、うろ覚えであったことも、あとになって「定着のための3大練習」をしっかりすることで、知識がよみがえり、知識を正確に身に着け、自分のものとすることができます。

定着のための3大練習は不可能を可能にする

(1) 学校の単元テスト、定期試験、実力試験、業者模試、入学試験、資格試験、入社試験、国家試験などすべての「試験勉強対策」の第一歩は、「教科書」の知識を万遍(まんべん)なく、「スミからスミまで」正確に「理解」し、正確に「定着」させることです。

(2) 一度「理解」したことを「定着のための3大練習」によってすべて身に着けることは、あらゆる試験で「不可能を可能にする」という成果を発揮します。

(3) 是非、チャレンジを。学校の定期試験で100点が取れ、模試の偏差値も急上昇します。

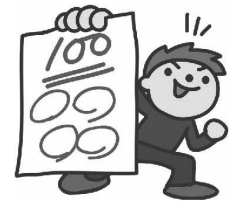
〈第4章〉第3段階「応用」とは

Q 1 : 「学習の3段階理論」の「第3段階」である「応用」とは何ですか。

- A : (1) 一度、うんなるほどと「理解」した内容を、「定着のための3大練習(音読練習、書き取り練習、計算・問題練習)」で正確に身に付け、「定着」させ、それらを用いて「試験でよい点数」を取り、又、「社会に出て役立てる」ことです。
- (2) まとめていうと、「応用」とは「理解、定着したことを用いて、試験でよい点数を取り、社会で役立てる」ことです。
- (3) 「試験でよい点数を取る」ことと、「社会で役立てる」こと、この2つが「学習の3段階理論」の「応用」の内容です。

Q 2 : 「試験でよい点数を取る」の「よい点数」とは何ですか。どんな点数を取れば「よい点数」なのですか。

- A : (1) 「よい点数」とは、
- ① 学校の単元テスト・定期試験では、「100点満点」を取ることです。
 - ② 業者模試では、「トップ校・難関校を含む第1志望校に合格できるだけの十分な偏差値」を取ることです。
 - ③ 入学試験・検定試験・国家試験・就職試験では、「合格点」を取ることです。



Q 3 : 学校の定期試験で「100点満点」という「よい点数」を取るには、どうしたらよいですか。

- A : (1) 学校の定期試験は、毎年実施の時期が決まっていますので、2～3か月前から定期試験対策の勉強をスタートすることです。
- (2) 例えば、この原稿を書いている今日は、3月17日(火)です。3学期制の学校なら1学期の中間試験は5月中旬から下旬、2学期制の学校なら前期の中間試験は6月中とほぼ毎年決まっていますので、今日から1学期に行われる第1回目と第2回目の定期試験対策をスタートすれば、よい点数、100点満点が取れます。
- (3) では、どのように行えばよいか。新学年の学校の教科書や開倫塾のテキストを手にした瞬間に、1学期に行われる定期試験の範囲まですべて「予習」をし終えることです。2学期制の学校は、前期の範囲すべてをできるだけ早く勉強し終えることです。
- (4) そして、学校の授業の直前にも、もう一度「予習」をし、授業が終了したら「復習」をし、第1段階の「理解」を完璧にした上で、第2段階の「定着のための3大練習」を徹底的に行う。「予習」の段階で、「理解」だけでなく、「定着のための3大練習」ができるものはすべて行って授業に臨み、授業後の「復習」でもさらに行って完璧を期す。これを全教科行えば、各学期の定期試験で、全教科100点満点を取ることができます。
- (5) 学校の定期試験は「試験範囲」が明確に示されますので、早め早めの対策として「理解」プラス「定着のための3大練習」を行えば、誰でも確実に100点満点が取れます。



Q 4 : 業者模試で、第 1 志望校に合格できるだけの偏差値を確保するには、どうしたらよいですか。

A : (1) ①業者模試も各回ごとに「試験範囲」が明確に示してありますので、できれば模試の 1 ~ 2 か月前までに、その「試験範囲」の内容を自分で主に使っているテキストに沿って「理解」し、「定着のための3大練習」を済ませておくことです。



②その上で、業者模試の昨年同時期の問題(これを「過去問」と呼びます)の何年分かを、実施 1 か月前に、時間通りに解いてみることをおすすめします。

③業者模試の過去問を解き、自分の苦手分野・弱点分野を発見したら、本番の業者模試当日までの 1 か月間、その分野を集中的に勉強することをおすすめします。

(2) 実は、業者模試は試験終了後が大切です。

①試験終了後に配付された解答・解説を見て、得点を計算。できた、できなかったで「一喜一憂」する時間はできるだけ避けるか、できるだけ短時間にしましょう。

②業者模試で大切なのは、解答・解説を開倫塾や学校の先生の授業をお聞きするときのような真剣な態度で、一語一語かみしめるように精読、「理解」に努めることです。

③よく「理解」できたら、開倫塾や学校で授業を受けるように、全教科とも今度はじっくり時間をかけて、問題文をテキストにして、もう一度勉強し直してみてください。つまり、意味のよくわからない語句があったら、「気持ちが悪い」と考え、辞書や用語集、学年別・分野別参考書、インターネットなどで調べる。調べたことは、ノートや単語カードに書き写し、すべて覚えることです。

④各教科の問題文や設問、選択肢を用いて、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」ですべて身に着ける、「定着させる」ことをおすすめします。

⑤一度解いた模試を、自分の教科書・テキストと同じように最大活用することが、偏差値アップの最短の道です。

⑥模試の解答・解説は、問題文同様、作問者の先生方が、心血を注いで書き上げたものです。開倫塾や学校の先生の授業だと思って、一語一語、真剣に「理解」すること。「理解」したことは、「定着のための 3 大練習」を行ってすべてスミからスミまで身に着ける、「定着」させることです。

⑦間違えた問題を書き抜いた「間違いノート」と、大切なことをまとめた「まとめノート」の作成、繰り返し読み直すこともとても有効です。

Q 5 : 入学試験で「よい点数」、つまり「合格点」を取るためには、どうしたらよいですか。

A : (1) 入学試験で過去に出題された問題(過去問)5~10年分を徹底的に活用した勉強をすることです。

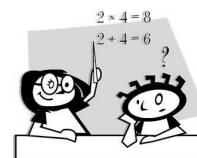
(2) 遅くとも、入学試験の 2 ~ 3 か月前になったら、「過去問」を用いた勉強をスタートしましょう。

(3) 「過去問」の勉強の仕方(手順)は、業者模試と全く同じです。

①「過去問」をノートに解く。



- * どうしても時間内に解けなければ、時間を延長してでも解く。
- * 解き方がよくわからない問題や、正解がわからない問題は、辞書や用語集、参考書、教科別辞典、インターネットなどで「わかるまで徹底的」に調べる。まずは、自分の力ですべて解く努力をする。



②解答・解説を読んで採点をする。

- * 大切なポイントは「ノート」に書き写す。間違えた問題の正解や解き方もノートに書き写す。（「間違いノート」を作成）

③問題文・設問・選択肢・解答・解説は、学校の教科書を学ぶのと同じように一語一語、ていねいに「理解」に努める。「理解」できたものは「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を行い、「定着」を図ることで。

(4)①間違えた問題を書き抜く「間違いノート」を作成する。

②大切なことをまとめる「まとめノート」の作成も極めて有効です。

③どちらも、「ポイント(要点・大切なこと)」のみ「要領よくまとめ」ましょう。

- * 大切なのは、その「まとめノート」を繰り返し読み直し、すべて自分のものとして身に着けることです。

〈第5章〉第3段階 学力とは何か

Q 1 : 「勉強の成果」を決定する上で、大切なこと(要因)は何ですか。効果の上がる勉強をする上で大切なことは何ですか。



〈自覚をもって学ぶこと〉

A : (1)「本人の自覚」です。

(2)「本人の自覚」とは、勉強する本人が、自分は一体何者なのか、今、自分はどうのような立場にいるのか、自分の得意なこと・不得意なことは何か、自分自身でよくわかっていることとは何かについて、よく「理解」していることです。

(3)①この「本人の自覚」がないとどうなるか。

②「勉強する本人」が、なぜ今ここで勉強しなければならないのか、なぜ自分は定期試験や模擬試験、入学試験などを受けなければならない立場にいるのかをわかっていないと、なかなか勉強がはかどらず、成果はあまり期待できません。

③みんなが勉強するから何となく勉強する、みんなが進学するから進学する、保護者や先生に言われたから仕方なく机に向かうというのでは、学校の定期試験や模擬試験、入学試験、3大検定などの試験勉強に力が入らず、よい結果はあまり期待できません。

Q 2 : では、どうしたら自覚をもって学ぶことができるのでしょうか。

A : (1)①ちょっと難しいお話になりますが、今通っている学校というのはどのようなところかを、じっくり考えてみることをおすすめします。小学生は小学生として、中学生は中学生として、高校生は高校生として、今通っている小学校、中学校、高校とはどのようなところかを自分なりに考えてみましょう。例えば、中学校は何をするところなのか、中学校で学ぶことはどのようなことなのかなどを、

学校の案内(パンフレット)や入学式、オリエンテーション、始業式、終業式、朝礼、HRなどでの先生方のお話から考えてみましょう。

②今学んでいる各教科の大切さも、少しずつでよいですから考えてみましょう。



③教科の勉強だけでなく、教科外の教育活動、HR、学級会、掃除当番や給食当番をはじめとするいろいろな当番、児童会、生徒会、部活動、体育祭、文化祭、体験教室、鑑賞教室、修学旅行、卒業式、入学試験、始業式、終業式、全体朝礼などの大切さも自分なりに考えてみましょう。

(2)①まずは、今行っていることの「大切さ」(これを難しい言葉で「価値」といいます)を自分で考え、少しずつでも「理解」する。

②次に、そのことの自分にとっての「意味」を自分の力で考えてみる。そして、このことは自分にとってこのような意味があるのだと、自分なりに「意味付け」をする。

③最後に、自分としてはどうしようと考えてみる。やりたいことのすべてはできないので、これはやろう・これはやらないでおこうと自分なりに「ルール」を決めて、自分で決めた「ルール」なのでできるだけ守るように努める。自分で考えた「ルール」に従ってやりたいことを少しずつ抑え、自分自身を「律しながら」行動する、「自律的に行動」することです。

Q 3 : それでは、お聞きします。「学力」とは何だと考えますか。

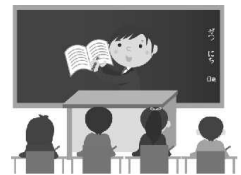
A : (1)①「自分からすすんで学び続ける力」

②「主体的に学び続ける力」

③「自覚をもって学び続ける力」

(2)勉強をする上で最も大切なことは、「学び続ける」ことです。

(3)「学ぶ」とは、人生を何度も生きるために「学び続けること」です(元東京大学総長の佐々木毅先生のことば)。人は、学び続けることで「人生を何度も生きること」ができます。



Q 4 : なるほど。それではお聞きします。自覚をもって学ぶとはどのようなことですか。

A : (1)①「受験生」の塾生の皆様には、1日も早く「自分は受験生である」という「自覚」をおもち頂きたいと強く要望いたします。

*塾生の皆様の中で、2021年の冬に公立中高一貫校、私立中学校、高校、高等専門学校、大学、短期大学、専門学校、専修学校への入学を希望なさる方を、開倫塾では、「受験生」とお呼びします。

②「自分は受験生である」という「自覚」があると、できるだけ「長い時間勉強する」ようになります。

③「受験勉強の仕方を工夫」するようになります。

(2)①「入学試験の実施日」は決まっており、入試前日までに「合格できるだけの実力」を身に着けなければなりません。「毎日、できるだけ長く勉強すること」が必要です。

②また、短い時間に効果的に勉強できるよう、「受験勉強の仕方を工夫」することも求められます。

- (3)①これに加えて、「読解力」を身に着けないと、「試験時間内に大量の問題文や設問、選択肢を正確に読み込み、正解を導き、書き記すこと」ができません。
- ②そこで、「辞書」を用いて身に着けていることばの数を増やし、「新聞」を読んで複雑な文章を正確に、論理的・分析的に考えながら読む能力を身に着け、「読書」に励み、思慮深さ、深く考える力を身に着けることが求められるのです。
- ③「辞書と新聞、自分の好きな本を1冊、いつもカバンの中に入れて持ち歩き、どんどん親んでください。」



Q 5 : どうしたら「受験生としての自覚」をもち、これから1年間、受験勉強をすることができますか。

A : (1)なぜ、公立中高一貫校や私立中学校、高校、高等専門学校、大学などに進学したいのか、「進学の目的」をはっきりさせることです。

- ①そのための一歩のおすすめは、「自分で一番行きたい学校(これを開倫塾では「第1志望校」といいます)を1日も早く訪れ、どのような学校なのか直接見学」することです。
- ②外から建物だけを見ても OK です。また、放課後などなら、「来春、入学を希望するので、ちょっとだけ見学させて頂けませんか」と受付で理由を述べれば、中に入れてくれる学校も多いですよ。
- ③オープンキャンパスまで待たずに、1日も早く第1志望校を実際に訪問することをおすすめします。
- (2)①大学は誰でも自由に入れるところが多いので、キャンパスを散歩したり、大学のカフェやレストランで、お茶やランチをするのもおすすめです。
- ②理由を述べ、手続きをすれば、大学図書館を見学させてくれる大学もかなりあります。
- ③大学の中にある、コンビニや書店・文具店などを訪れると、大学生活の一端に触れることもできます。御家族や友だちと一緒に行くのもよし、一人で行くのもよし、第1志望校への訪問を1日も早く実現してくださいね。



(3)「第1志望校に入学して何をするか、何を学ぶかを自分の力で考える」ことも、「受験生としての自覚」をもつのに役立ちます。

- ①恥ずかしながら、私を例にお話します。私は中学2年生のころから、将来は弁護士か新聞記者になりたいとひそかに思うようになりました。そこで、例えば、弁護士になるにはどうしたらよいかを調べたところ、司法試験に合格し、司法研修で2年間の研修を受けて修了し、弁護士として登録をしなければならないことを知りました。では、どのようにして司法試験に合格することができるかといえば、司法試験に合格者を毎年出している大学の法学部法律学科で法律を学ぶことが必要だということがわかりました。そこで、当時、私が住んでいた栃木県足利市の近くで司法試験に合格する大学に進学できる高校はどこかと探したところ、地元の、栃木県立足利高校普通科がよいので

はないかということになり、足利高校を受験することにしました。

- ②これは私の例で、あまり参考にならないかもしれませんが、このように将来の職業のために高校を選択することも考えられます。

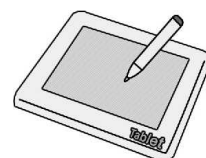


*結果を御報告しますと、希望した足利高校に無事合格し、高校卒業後は、司法試験合格者を出している慶應義塾大学法学部法律学科に進学することができました。ここまではよかったのですが、実力不足のために司法試験には合格を果たすことができず、開倫塾を創業するに至りました。

*ただし、よかったのは、高校の同じクラスから司法試験に合格し、裁判官になった友人が出て、又、私の実の弟も同じ高校、同じ大学で学んで司法試験に合格し、弁護士になれたことです。身近な友人や弟が夢を実現できて本当によかったと思います。

- ③第1志望校に入学して、「こんなことをやりたい、学びたい」、「その学校を卒業してから、～がしたい」、「社会に出て…になりたい」という明確な目標をもつことをおすすめします。たとえ最終的にその夢が叶(かな)わなくても、それまでの勉強や努力はしっかり身に着いていますので、どこかで必ず役に立ちます。私の場合も、法律を勉強したので、社会に出てからもかなり役に立っています。

Q6 : 「学習の3段階理論」などを参考に、自分なりの「効果の上がる学習方法」を身に着けると、どのような人生が歩めますか。



A : (1) 「多様な選択肢のある人生を歩む」ことができます。

① 「人生の選択肢」が一気に「多様」になります。

② 一度にたくさんはできませんが、自分の潜在能力を発揮し、得意分野を生かしながら生きることができます。

(2) ① 試験に合格できなければ、できないこと・就けない仕事は山ほどあります。又、勉強をすればするほど、できることも、たくさんあります。

② 例えば、ウェアラブルやスマホ、タブレット、PC も使い方がわからなければ何の役にも立ちませんが、4つの器種の特徴や機能をよく学んで使い方を身に着けることにより、「同期化」したり、様々なことを成し遂げることが可能になります。

③ このように、「人生の選択肢が多様」になり、「多様な人生を歩む」ことができます。

(3) ① さらには、「正常に機能する社会の形成」「持続可能な社会の形成」に貢献することができます。

② 学べば学ぶほど、SDGs、つまり、人類が2030年までに解決しなければならない17の領域の課題解決に、何らかの形で貢献することができます。

③ このように「学習の方法」を身に着け、「自覚」をもって「主体的に学ぶ」ことは、自分の未来だけでなく、地域社会や人類の課題解決に役立ちます。

No.11「長い時間、勉強する習慣を身に着けよう」

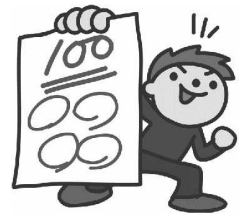
Q1：やはり勉強は、長い時間やったほうがよいのですか。

A：(1)気持ちを集中して、又、小間切れの時間をうまく利用して、短時間でも、勉強はできます。

(2)ただし、授業の予習や復習、学んだことをしっかり身に着けるには、長めの時間の勉強が必要です。

(3)また、定期試験や実力試験、模擬試験、入学試験や検定試験など、大切な試験を受けるときには、まとまった、長い時間をかけての勉強が求められます。

(4)このように、定期試験で100点満点、模擬試験で第1志望校の合格に耐えられる偏差値をとったり、トップ校・難関校を含む第1志望校や検定試験、英語検定、漢字検定、数学・算数検定など「3大検定」や、国家試験などを受験し、見事、合格を果たすには、「ハードな長時間自己学習」を行うことが欠かせません。



Q2：この「ハードな長時間自己学習」というのは何ですか。

A：(1)「ものごとを成し遂げる」には、「高い志」をもち、その「高い志」、目的を達成するために、具体的な「取り組み」をすることが必要です。

(2)その「取り組み」の1つとして、まずは、自分は「受験生であると自覚」すること、第1志望校に合格するために、「勉強の仕方」を工夫したり、「勉強の時間の確保」をしたりしなければなりません。

(3)①「トップ校・難関校」を第1志望校としたり、「現在の自分の実力では合格することがかなり難しい学校」や、「受験倍率が高い学校」を自分の力で決めた「第1志望校」とした場合には、真剣そのもの、かなり熱心な「長い時間自学自習」をすることが求められます。

②これをまとめて、「ハードな長時間自己学習」と、開倫塾では呼んでいます。

③このことばを、開倫塾の塾生、特に受験生の皆様の中に、今年も「合言葉」にして、トップ校・難関校を含む第1志望校合格を果たして頂きたいと希望します。

—ちよっと一休み：受験における「合言葉」の効用—(Concentration コンセントレーション)

(1)私が高校入試を受けたときのお話です。

受験直前に「Concentration(集中)」という英語を知り、これだと思い、答案用紙が配られる前に、「Concentration, Concentration, Concentration」と呪文のように唱えたら妙に心が落ち着き、スーと解答用紙に向かえました。

(2)又、あるとき「定期試験では、教科書をスミからスミまでよく理解し、スミからスミまですべて定着・身に着けよう」と教室でお話したら、「スミからスミま

- で」を「合言葉」にして、何教科も 100 点をとった方がたくさん出ました。
- (3) このように、自分で気が付いたり、友達や先生、先輩などから教えて頂いた「何気ない一言」を「合言葉」にし、「ものごとに対処」し、「勉強に励む」と、思わぬ成果が生まれます。
- (4) この〈2020 年 3 月塾長メッセージ〉では、皆様が実行すれば「即」成果が出る、「勉強の仕方」や勉強についての基本的な「考え方」を、少しずつお伝えします。一つでもよいですから、参考にして、自分にとっての「合言葉」にしてくださいね。
- (5) 今回、合言葉にして頂きたいのは「ハードな長時間自己学習」です。

Q 3 : では、お聞きします。「ハードな自己学習」として、どのくらいの期間、1 日にどのくらいの時間勉強すればよいのですか。

- A : (1) 「知的な生活」からスタートして、「勉強中心の生活」に慣れ親しむことです。知的な生活の第 1 は「読書」です。「受験生としての自覚」をもち、トップ校・難関校を含む第 1 志望校に合格を果たしたいのなら、簡単な本は 1 ~ 2 回、大切な本は時間をじっくりかけ、間を空けて 5 ~ 6 回は読むことをおすすめします。
- (2) 「自分は~という学校に合格を果たしたい」と決めた日、つまり、「第 1 志望校を決定した日」から、受験直前(受験前日)までの期間、眠る時間、生活に必要不可欠な時間、通学に要する時間以外は、受験勉強に集中するようにおすすめします。
- (3) 特に、入試直前の数か月間は、「寝る時間以外は勉強」を「合言葉」に「ハードな長時間自己学習」に励むことです。新聞を読んだり、読書をする 것도勉強です。勉強時間に入れてください。
- (4) よく考えれば、コロナやインフルエンザによる学級閉鎖、学校休校の期間は、この「ハードな長時間自己学習」をすることのできる「絶好の機会」です。あまり無理をせず、少しずつでも OK ですから、「チャレンジ」しましょう。

Q 4 : 4 月に入り、学校が始まったらどうしたらよいのですか。

- A : (1) 学校への「通学時間」中も、創意工夫して行うことです。
- (2) 「授業時間前」には、その教科の教科書や「授業ノート」を徹底的に復習し、「スミからスミまで」を合言葉に、全部覚えてしまいましょう。そして「スミからスミまで」、すべて「定着」してしまいましょう。
- (3) 「授業中は、授業に集中」。「学校の授業内容も入試の試験範囲」ですから、授業内容は授業中にすべて「理解」し、できれば「授業内容は授業中にすべて定着・身に着ける」ことを心掛けましょう。このように、学校の授業中にも、受験勉強はできます。



Q5：開倫塾で、この「ハードな長時間自己学習」を行ってもよいのですか。

A：(1)もちろんです。

(2)開倫塾でも先生方の勤務時間中は「自己学習スペース」で「自学自習」「自己学習」ができます。開倫塾にも「辞書・新聞・お気に入りの本を1冊」、必ず持参し、「読解力」を身に付けてください。辞書・新聞・読書を活用して読解力を身に付ける時間も、勉強時間に入れてくださいね。



(3)但(ただ)し、開倫塾で自己学習をする場合には、必ず事前に、校長先生の許可を得てください。

①体調が悪い場合や体温が 37.5 ° 以上ある場合、御家庭にインフルエンザや新型コロナウイルスに感染した方がいる場合などには、来塾は、お控えください。

②「マスク」を必ず着用、「手洗い」、「うがい」を徹底してください。

③感染防止のため同じ部屋に他の塾生がいる場合には、かなり離れて着席して頂きます。

④「換気」を頻繁に行います。

⑤以上を予め、御理解の上、御協力ください。



〈学校の図書館を大いに活用しよう〉

1.(1)「学校の図書館」に毎日1回以上行き、

(2)「新聞」を毎日30分以上読む。

(3)「読書」を毎日1時間以上行う。

(4)①意味のわからない語句を図書館の辞書を用いて調べ、

②調べたことは「意味調べノート」や「単語カード」に書き写し、

③その語句の意味がうんなるほどよく「理解」できたら、

④その場で「音読練習」「書き取り練習」を繰り返し、

⑤すべて「覚える」「定着させる」ことです。

2.(1)このように学校に行ったら「学校図書館」に毎日1回以上行き、「辞書」を活用し、「新聞」を読み、「読書」に励むこと。そして、すべての教科の勉強や入試に不可欠な「読解力」を確実に身に着けることです。

(2)「辞書」「新聞」「読書」を活用して、トップ校・難関校を含む第1志望校の入試に耐えられる十分な「読解力」を身に着けることは、「受験勉強」そのものです。

「読解力を身に着けることなくして学力向上なし」「読解力を身に着けることなくして受験勉強なし」と断言できます。

(3)「辞書を用い、意味調べ」をし、「新聞を毎日30分以上読む」「読書を1時間以上行う」ことで、入試に必要な「読解力」を身に着けるのに「学校図書館」ほどよいところはありません。



3.(1)学校が休みの日には、地域の「公共図書館」に必ず出かけ、同じことをすることをおすすめします。

(2)但し、現在(2020年3月2日(月)以降)は、新型コロナウイルスやインフルエン

ザ感染拡大防止のため、学校図書館の利用が制限されることがあります。また、地域の公共図書館も利用制限がなされることがありますので、これらの取り組みは、「自宅」で行わざるをえません。

Q6：開倫塾の「自己学習スペース」で自学自習、「ハードな長時間自己学習」をしてもよいのですか。

A：(1)もちろんOKです。

(2)但し、校長先生が許可した場合に限ります。又、校長先生の指示に従う場合に限ります。

(3)特に2023年6月から、第9波新型コロナウイルスとインフルエンザ感染防止のため、多くの学級や学校が再び、休校になっていますので、特に細心の注意が必要です。

* Q5のA(私の回答)と、開倫塾の校長先生の指示を必ずお守りください。

〈今は、ハードな長時間自己学習を行う絶好の時期〉

1. ①よく考えれば、学校が休校になり、部活動も休止となっているこの3月2日(月)からの期間は、「ハードな長時間自己学習」を行う「絶好」の期間です。
②学校が再開されるのは、早くても春休みの期間が終わってから、場合によってはゴールデン・ウィーク明けからかと思われます。
③それまでの数十日間、「ハードな長時間自己学習」を行い、「トップ校・難関校を含む第1志望校合格」を果たすための「受験勉強」を行ってください。
2. ①朝起きてから、午前中はめいっぱい自宅で学習。
②昼食後は自宅で学習。
③午後は、気分転換を兼ねて、開倫塾の「自己学習スペース」で、しばらくの間、「自学自習」。わからないことがあれば、開倫塾の先生に質問。
④このように、「勉強中心」の毎を送り、4月又は5月からの新学年の授業に臨むことをおすすめします。
3. ①小学校4・5・6年生で私立中学校入試・中高一貫校入試を受験する塾生
②中学2・3年生で、トップ校・難関校を含む第1志望校合格を果たそうと決めている塾生
③高校1・2・3年生で、トップ校・難関校を含む大学合格、高度な専門学校合格を本気で考えている塾生
④以上の塾生の皆様は、学級閉鎖や学校の休校が終わるまでの期間を「受験勉強」のスタート期間と考え、健康に十分注意しながら、勉強中心の毎を送りましょう。
4. 今年の7月から、来年、又は2～3年後の1月2月3月に行われる入学試験の前日まで、「勉強中心」の毎を送れば、必ずトップ校・難関校を含む第1志望校合格が果たせます。



Q7 : 開倫塾の「自己学習スペース」では、1日にどのくらいの時間勉強すればよいのですか。

A : (1)2023年の1月～3月に行われた入学試験でも、多くの塾生の皆様が、入試直前の数か月間、「開倫塾の自己学習スペース」で「ハードな長時間自己学習」を「実行してトップ校・難関校を含む第1志望校合格」を果たしました。

(2)開倫塾の創業者で、開倫塾全校舎の最高責任者である塾長として、私が受験生を含むすべての塾生の皆様に「訴え」続けていることは…

①「夕方、学校から家に帰り、しばらく休んだら開倫塾に来塾。

②開倫塾の自己学習スペースで夕刻から夜10時30分(東京は10時)まで

③開倫塾の校長先生の許可を受け、先生方の指示通り、長時間自己学習に励むこと」です。

(3)つまり、「夕刻から夜10時30分(東京は10時)まで開倫塾の校長先生の許可を得て、先生方の指示通り長時間自己学習する」ことが、開倫塾の「自己学習スペース」での「長時間自己学習」の「勉強時間」です。

①例えば、夕方4時30分から10時30分まで行えば、合計で6時間となります。(東京なら4時30分から10時までなら5時間30分となります)

②夕方5時から10時30分までなら5時間30分となります。(東京なら5時から10時までなら5時間となります)

③学校が早く終わる日は、開倫塾の先生の出勤時間から来塾してもOKです。

(4)1時間に1回は休み時間があります。軽食はそのときにお取りください。

— <「自己学習スペース」を利用するときの「注意」を必ずお守りください> —

①開倫塾に、飲み物や軽食を持参してもOKです。ただし、軽食をとっていいのは、休み時間だけです。

②自分で出したペットボトルや軽食の容器などすべての「ゴミ」は、開倫塾の「ゴミ箱」に捨てずに、「必ず」全部自宅に持ち帰り、自宅で処分してください。

③「自己学習スペース」の机の上においていいのは、教材やノート、筆記用具のみです。

「ペットボトル」「軽食」「スマホ」「携帯」等は、すべてカバンの中に入れておき、必要なときだけ、使用してください。

④「自己学習スペース」で「自学自習中」に「スマホ」「携帯」「ゲーム」を利用することは「絶対禁止」です。

⑤「おしゃべり」や「歩き回る」も禁止です。指定された机・椅子から離れることなく「勉強に集中」してください。

⑥但し、トイレは決してがまんせず、必要なときに利用してください。



Q 8 : 開倫塾の「自己学習スペース」では、何をどのように夕方から夜10時30分(東京は10時)まで勉強すればよいのですか。

A : (1) 持参するものは次の3つです。

- ① 「辞書」「昨日の新聞」「お気に入りの本1冊」
- ② 必ず、この3点セットは、毎日持参してください。
- ③ 50分間は「新聞」と「お気に入りの本」を読み、「読解力」を身に着けましょう。



(2) ① 昨日の新聞を必ず持参してください。

- ② 「新聞を毎日30分以上読む」ことが、「読解力」を身に着ける一番の近道です。
- ③ 「自己学習スペース」でも、来塾したら、最初の10～20分は、新聞を読むこと。

(3) ① 「お気に入りの本」を1冊必ず持参してください。

- ② 「読書を1日1時間以上すること」も「読解力」を身に着ける一番の方法です。
- ③ 「新聞」を10～20分読み終わったら、「自己学習スペース」で、毎日「お気に入りの本」を40～50分読むことで、読解力を身に着けましょう。

(4) 「新聞」を毎日10～20分読むことと、「お気に入りの本」を毎日30～40分読むことが最初の50分間の過ごし方です。



＜開倫塾の「自己学習スペース」で受験勉強として辞書・新聞・読書を活用

して読解力を身に着けよう＞

(1) ① 家庭で勉強する場合も、各教科の勉強を始める前に、新聞を10～20分読み、そのあと、お気に入りの本を30～40分読み、「読解力を身に着ける取り組み」「訓練」「練習」をすることです。

- ② これはスポーツをする前の、「準備運動」や「柔軟体操」と全く同じです。
- ③ 「ランニング」や「キャッチボール」、「柔道なら受け身」の練習と、全く同じです。

(2) ① 学校の勉強や受験勉強には、「読解力」が欠かせません。いくら、各教科の勉強をしても読解力が足りないと成績は伸びません。キャッチボールもできない人が野球をやるのと同じです。受け身のできない人が柔道をやるのと同じです。「読解力」が身に着いていないと勉強や入試どころではありません。

② この「読解力」を身に着ける最良、最短、最も効果的なのが「辞書」「新聞」「読書」の活用です。

③ ですから、「長時間自己学習」の中で1時間(50分)を用いて「新聞を40～50分毎日読む」「お気に入りの本を30～40分読む」ことを、声を大きくして創業以来「おすすめ」しているのです。



(3)①小 6、中 3、高 3 生の塾生の皆様は、受験勉強として、必ず毎日「新聞」と「お気に入りの本」を最低 50 分間は「本気」で読み、「受験に必要な読解力」を「受験勉強」として身に付けてください。1 年間行えば必ず 60 以上の偏差値がとれます。

②小 1～小 5、中 1～中 2、高 1～高 2 の「非受験学年」の塾生の皆様こそ、「辞書」「新聞」「読書」を活用して、受験学年になるまでにじっくり、本格的な「読解力」を身に付けてください。



③辞書をよく利用し、新聞を毎日 30 分以上よく読み、読書を毎日 1 時間以上した人で、学校成績がよくない人や業者模試で偏差値のよくない人を私は知りません。

(4)学校成績を大幅アップさせ、偏差値 60～65 以上を確実にとりたかったら「辞書」をよく引き、知っている「ことばの数」を増やし、「新聞」をよく読み、「読書」に励み、「読解力」を身に付けてくださいね。



Q 9 : なるほど。自己学習スペース利用の最初の 50 分間は新聞と読書ですね。
次の 3～4 時間はどうしたらよいのですか。

A : (1)①ここからは、普通の受験勉強です。

②毎日の勉強には大雑把で OK ですから、計画が大切です。

③今日は、どの教科とどの教科をどのくらいの時間勉強するかを、大雑把で OK ですから、まずは考えてノートにメモしてください。

(2)あとは、北関東は夜 10 時 30 分(東京は 10 時)まで、ひたすら机に向かうこと。

(3)家で勉強する場合も全く同じです。

(4)この「ハードな長時間自己学習」を今から受験前日まで行えば、トップ校・難関校を含む第 1 志望校は必ず合格します。どのように高い倍率の入試も突破できます。

(5)まして、小 5、中 2、高 2 から 2 年間、この「ハードな長時間自己学習」を行えば、入学できない学校はありません。



(6)①受験勉強こそ「自己責任」「自助努力」「自分の未来は自分で切り開く」ことが大切です。

②受験勉強は、自分との闘いです。

③「自立心」(自分自身の力で立つ)と、「自律心」(自分で決めたことは、自分の行動を律しながらやり遂げる)の 2 つが大事です。

(7)「自分の未来は自分で切り開く」の明るい前向きな気持ちで、「受験勉強の本格的なスタートの時期」と考えましょう。

そして、「ハードな長時間自己学習」を、家庭と開倫塾の「自己学習スペース」を組み合わせる行ってください。

No.1 2「感謝の心をもって勉強しよう」

Q 1 : なぜ感謝の心をもって勉強しなければならないのですか。

A : (1) ①「勉強は自分の力で行うもの」で、感謝の心をもってするようなものではない。そのような考えをおもちの方も多いと思います。



②ただ、よく考えてみれば、土地を購入して学校を建設し、教室や体育館など様々な学校設備を施すには巨額の費用が必要です。また、先生や事務の方を雇用し、教科書や教材を提供するのにもかなりの費用が必要です。

③それらの費用は、納税者の税金や、保護者の納入金、場合によっては寄付金でまかなわれています。

④国や自治体、保護者や寄付をする方々にこれらの費用を支払う能力がなければ、皆様は現在のような学校での教育は受けられないといえます。

(2) ①世界には、学校に通えない子どもたちがいます。

②教室の照明や机・いす、教科書やノート、えんぴつなどの筆記用具が不足している学校が世界にはたくさんあります。トイレが不足しているため、学校で学べない子どもたちもいます。

③驚くべきことに、教室に行っても先生がいない学校も数多くあります。

④なぜか。国や自治体、保護者に十分な資金がないこと、学校教育を支える十分な「しくみ」がないことが原因と思われれます。

⑤学校の授業が、「2部制」といって午前の部、午後の部と分かれている国もあります。日本のように朝から夕方まで学校で勉強や部活動に励むことができない国もたくさんあります。

(3) ①ですから、教育を十分に受けられない国の人々に思いをはせて、感謝の心をもって勉強して頂きたいと思います。同時に、どうしたら、世界中の子どもたちが十分な教育を受けられるかを考え、できることから是非、実行に移して頂きたい希望します。

②例えば、開倫塾は、開倫ユネスコ協会の活動を全面的にサポートしています。開倫ユネスコ協会は、特に貧しい国に、ノートや教科書、学校や教材などを寄付し、学校教育や民間教育機関を支援する「世界寺子屋運動」に、「書き損じはがき」を集めることで協力しています。

③このユネスコの「世界寺子屋運動」をはじめ、ユニセフや様々な支援があります。無理のない範囲で、協力しながら、世界の子ども

ありがとうございました！！
たちが学校で教育を受けられるようにするためには、どうしたらよいかをお考えください。とてもよい勉強になりますよ。



Q 2 : よく考えれば、家族や身の周りにいる人たちにも随分お世話になっていますね。

- A : (1)よくお気付きになってくださいました。さすが開倫塾の塾生ですね。
(2)自分が生活する上でサポートしてくださっている方々のおかげで、学校に通学でき、開倫塾で塾生として勉強できるのですから、感謝の心をもって学校で学び、又、開倫塾での勉強に励んでくださいね。
(3)時々、感謝の心を「ありがとう」とことばに出して表してくださいね。

Q 3 : ちょっとはずかしいですね。

- A : (1)日本人は、「はにかみ屋さん」が多いので、面と向かって「ありがとう」ということばを出すことが苦手の方が多いようです。
(2)①外国では、何か1つでもしてもらったら、その度ごとに、「相手の目を見て」、「Thank you (ありがとう)」というのが「エチケット」です。
②例えば、レストランで料理を出してもらったら、ウェイターやウエイトレスさんの目をしっかり見て、「Thank you」というのは普通です。
③「Thank you」といえない人は、ごう慢な人・いばっている人・礼儀を知らない人として、あまり相手にしてもらえなくなります。
(3)①我々日本人は、外国の方々から「Thank you !」という感謝のことば、あいさつを学び、日本語で「ありがとう」ということばをもっともっと頻繁に使ったほうがよいと考えます。
②何かしてもらったら、必ず「ありがとう」という練習を試みてください。
③家族の皆さんや、ふだんお世話になっている皆さんにも、心を込めて「ありがとう」と述べてください。



Q 4 : 最後に一言どうぞ。

- A : (1)お世話になった方々に、「感謝の心」をもって「お礼のことば」を述べることは大切な「能力」です。
(2)特に御家族や身近な方で親身になって心配りをしてくださった方々に、「お礼のことば」を述べることは決して忘れてはなりません。
(3)受験勉強の場合には、多くの方々のサポートを頂くことが多いので、受験の前日や合格発表後は「受験勉強を支えて頂きありがとうございます。感謝をいたします」と、お礼のことばを、はずかしがらずに、「ゆっくり」述べることをおすすめします。
(4)万が一、第1志望校に不合格になった場合もまったく同様です。「第1志望校には不合格になりましたが、合格できた学校で頑張ります。よろしく願いいたします」とはっきりお礼と決意表明ができてこそ、立派な人間といえます。辛いかもしれませんが、「お礼のことば」をしっかり述べて「感謝の心」を伝えましょう。
(5)この「塾生 HAND BOOK2023」を最後までよくお読み頂きありがとうございます。心から感謝いたします。ありがとうございました。



＜プロフィール＞

林 明夫(はやし あきお)

- ・慶應義塾大学法学部法律学科卒業
- ・世界銀行研究所、ハーバード大学行政大学院国際開発研究所で、
各々、公共部門の民営化集中コース修了
- ・開倫塾塾長、開倫塾日本語学校理事長、開倫ユネスコ協会会長
- ・学校法人 田原学園慶風高等学校サポート校開倫塾高等学院学院長
- ・学校法人有朋学園 有朋高等学院理事長(福島市)
- ・社会福祉法人両崖福祉会 特別養護老人ホーム清明苑監事(足利市)
- ・マニー株式会社(手術用縫合針製造) 社外取締役(2004～2010)
- ・宇都宮大学客員教授、作新学院大学客員教授
- ・公益社団法人経済同友会幹事(2004～2023)
- ・公益社団法人栃木県経済同友会理事
- ・一般社団法人栃木県生産性本部会長
- ・公益財団法人文字・活字文化推進機構評議員
- ・足利商工会議所議員、足利 5S 学校役員、
日本商工会議所 多様な人材活躍推進専門委員会委員
- ・日本 NIE 学会、一般社団法人日本工業倶楽部、交詢社、日本外国特派員協会など会員

—— 開倫塾創業44周年記念出版 ——

塾生HAND BOOK2023

— 「開倫塾12の躰(しつけ)プログラム」を活用し

「学習習慣」を身に着けよう—

2023年6月15日刊 第1版第1刷発行

著 者 林 明夫

発行者 林 明夫

発行所 開倫塾

〒326-8505 栃木県足利市堀込町145

<https://kairinjyuku.jp/>

TEL 0284-72-5945 / FAX 0284-73-1520



12

SHITSUKE PROGRAM

塾生 HAND BOOK 2023

AKIO HAYASHI



塾生番号

--	--	--	--	--	--	--	--

塾生名

開倫塾

校